

## 学長定例記者会見要項

日 時： 令和7年2月6日（木） 11：00～11：45  
場 所： 法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

### 発表事項

1. JAXA と医学部東日本重粒子センターが共同研究開始～アルテミス計画の有人宇宙船に搭載する宇宙放射線測定器の研究開発～
2. 学生が山形の果物の新しい魅力を創造&発信
3. 山形の「記憶」を一堂に公開する「山形アーカイブ」を増補！  
～「まちの記憶を残し隊」や同窓会・企業・個人などのデータ約4000点を追加～
4. 大正3年2月16日の蔵王山冬期初登頂関連の新資料が見つかりました  
(後編) 山形のスキーマの製作普及に尽力・初登頂した五十嵐竹次郎氏
5. 内閣府「地方大学・地域産業創生交付金事業」に採択
6. 文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に採択

### お知らせ

1. YAAS 第2回研究成果報告会を開催します。
2. 「女性アスリートのコンディショニング」～講演会のご案内～
3. 産学金連携コーディネーター認定証授与式 記念セミナー・地域交流研修会を開催
4. 令和7年度山形大学入学者選抜個別学力検査等の取材について
5. 山形大学学位記授与式等の取材に対するお願い



### (参 考)

- 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時： 令和7年3月6日（木） 11：00～11：45

場 所： 法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

## 学長定例記者会見（2月6日）発表

### 1. JAXA と医学部東日本重粒子センターが共同研究開始～アルテミス計画の有人宇宙船に搭載する宇宙放射線測定器の研究開発～

山形大学医学部東日本重粒子センター長

大学院医学系研究科先進的医科学専攻/重粒子線医学講座教授

いわい たけお  
岩井 岳夫

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 宇宙探査イノベーションハブ（TansaX）

参事・研究領域リーダー（ハビテーション領域）

ながまつ あいこ  
永松 愛子

### 2. 学生が山形の果物の新しい魅力を創造&発信

学術研究院教授（理学部主担当）

おくの たかし  
奥野 貴士  
おおさき ゆうや  
大崎 雄哉

縁と縁 代表

### 3. 山形の「記憶」を一堂に公開する「山形アーカイブ」を増補！

～「まちの記憶を残し隊」や同窓会・企業・個人などのデータ約4000点を追加～

学術研究院准教授（人文社会科学部主担当・附属博物館学芸研究員）

おぼた けいすけ  
小幡 圭祐  
やぶき なおひろ  
矢吹 尚大  
わたなべ ほとと  
渡邊 陽仁

まちの記憶を残し隊隊員／人文社会科学部人文社会科学科 4年

まちの記憶を残し隊隊員／工学部建築・デザイン学科 2年

### 4. 大正3年2月16日の蔵王山冬期初登頂関連の新資料が見つかりました

（後編）山形のスキーの製作普及に尽力・初登頂した五十嵐竹次郎氏

山形大学名誉教授（環境科学） 樹氷の会 会長

やなぎさわ ふみたか  
柳澤 文孝

### 5. 内閣府「地方大学・地域産業創生交付金事業」に採択

学 長

たまたま ひでとし  
玉手 英利

### 6. 文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に採択

学 長

たまたま ひでとし  
玉手 英利

理 事（研究担当）

いづか ひろし  
飯塚 博

有機材料システム研究科長

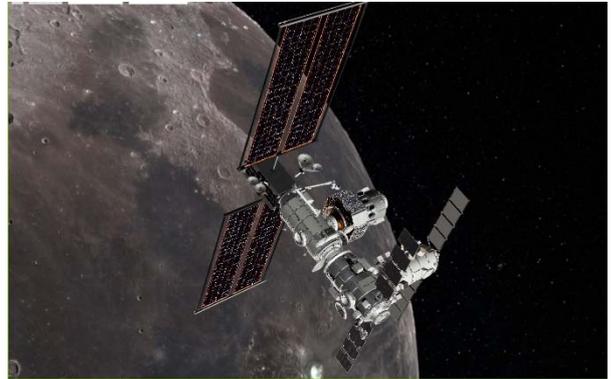
いとう ひろし  
伊藤 浩志

令和7（2025）年2月6日

## JAXAと医学部東日本重粒子センターが共同研究開始 ～アルテミス計画の有人宇宙船に搭載する宇宙放射線測定器の研究開発～

### 【本件のポイント】

- NASAが主導し、JAXAも参加するアルテミス計画において、月周回軌道に建設される有人月周回拠点ゲートウェイに搭載する宇宙放射線測定器開発を、JAXAと山形大学医学部東日本重粒子センターの共同研究で実施。
- 重粒子線治療装置で生成する高エネルギーの炭素線で宇宙放射線を模擬し、宇宙放射線測定器開発に利用する。
- 開発された放射線測定器により月近傍の宇宙放射線環境の理解が進み、被ばく管理手法や放射線防護対策など宇宙飛行士の安全性向上に貢献する



<https://nasa3d.arc.nasa.gov/detail/gateway>

### 【概要】

アルテミス計画において、月周回軌道に建設される有人月周回拠点ゲートウェイに搭載する宇宙放射線測定器開発を、JAXA と山形大学医学部東日本重粒子センターの共同研究で実施します。重粒子線治療装置で生成する高エネルギーの炭素線で宇宙放射線を模擬し、JAXA を中心に開発する3種類の宇宙放射線測定器開発に利用します。開発された放射線測定器により月近傍の宇宙放射線環境の理解が進み、被ばく量の導出だけでなく、月面構造物の遮蔽設計・防護対策や太陽高エネルギー粒子発生にかかる宇宙天気予測、今後の月周回・月面における新たな有人拠点（ハビテーション）活動のための環境モニタリングに活用されます。

### 【背景】

アルテミス計画とは、アメリカ航空宇宙局（NASA）が主導し世界各国が参加する、月への有人探査ミッションのことです。アポロ計画以来、約半世紀ぶりに人類を月面に送り込み、持続可能な月面探査を確立することを目指しています。我が国も宇宙航空研究開発機構（JAXA）が参加し、日本人初の2名の月面着陸が予定されています。この計画において、宇宙飛行士を月面に着陸するための拠点として月を周回する有人拠点ゲートウェイの建設が計画されています。月周回軌道や月面探査活動のための宇宙放射線環境計測は、被ばくや放射線影響の低減、放射線防護技術・遮蔽設計に直結する、極めて重要なキー技術です。JAXA と共同研究開発チームでは、有人月周回拠点ゲートウェイに搭載する宇宙放射線測定器として、さまざまな物理量を測定することができる3種類の放射線検出器の開発に取り組んでいます。

■超小型能動型線量計 D-Space

■位置有感生体等価比例計数箱 PS-TEPC (Position Sensitive Tissue Equivalent Proportional Chamber)

■月探査機搭載用チェレンコフ検出器 Lunar-RICHeS (Ring Imaging Cherenkov Spectrometer)

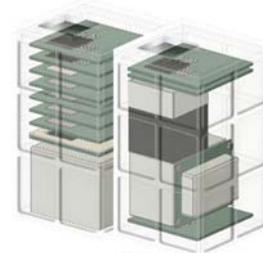
各機器の要素研究の評価・実証試験には、宇宙放射線環境を模擬した荷電粒子による照射試験が必須となります。



超小型能動型線量計 D-Space



PS-TEPC  
(ISS 搭載機)



Lunar-RICHeS  
(センサ部外観イメージ)

### 【研究内容】

宇宙では地上にはほとんど到達しない、幅広いエネルギー範囲を持つ高エネルギー荷電粒子が飛び交っていま

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

す。山形大学医学部東日本重粒子センターでは、広いエネルギー範囲の炭素線をシンクロトロン加速器により発生させることができ、宇宙放射線環境を模擬することができます。JAXA（代表研究者：宇宙探査イノベーションハブ 永松愛子参事）と山形大学（主たる研究担当者：東日本重粒子センター長 岩井岳夫）は、令和6年12月25日付で共同研究契約を締結し、重粒子線治療装置で生成する高エネルギーの炭素線を、有人月周回拠点ゲートウェイに搭載する宇宙放射線測定器開発に利用する研究協力を開始いたします。研究チームは本学と、JAXA、理化学研究所、高エネルギー加速器研究機構、東京理科大学、慶應義塾大学のメンバーで構成されます。

#### ※用語解説

1. アルテミス計画：NASA が提案し日本も参加する月面探査プログラム。2027 年以降に月面に人類を送り、その後、ゲートウェイ（月周回有人拠点）計画などを通じて、月に物資を運び、月面拠点を建設、月での人類の持続的な活動をめざす。日本人初の月面着陸が予定されている。
2. 宇宙放射線：宇宙空間を飛び交う放射線の総称。地上には届かないような高エネルギー荷電粒子が含まれる。
3. ゲートウェイ：アルテミス計画において、持続的な月面探査に向けた中継基地として、月周回軌道上に構築される有人拠点。
4. 能動型線量計：放射線の量をリアルタイムで計測・表示できる線量計
5. 生体等価比例計数箱：生体組織に等価な壁材およびガスを用いた放射線計測器
6. チェレンコフ検出器：媒質中を荷電粒子が光速を超えて走ることで発生するチェレンコフ光を検出し、荷電粒子のエネルギーを測定する装置
7. ISS：国際宇宙ステーション

#### 【関連リンク】

- 1) 月周回有人拠点 Gateway（ゲートウェイ）での科学利用  
<https://humans-in-space.jaxa.jp/biz-lab/tech/gateway-utilization/>
- 2) 「2021 年度 月面での科学研究・技術実証ミッションにかかるフィジビリティスタディテーマ」公募と採択結果  
<https://www.exploration.jaxa.jp/news/newspage/20210729.html>  
<https://www.exploration.jaxa.jp/news/newspage/20220210.html>
- 3) 月面利用の拡大に向けた先行的な技術の研究開発開始！  
～超小型・高機能な宇宙放射線環境の計測技術とリアルタイム被ばく線量評価システムの構築～  
[https://www.nagoya-u.ac.jp/researchinfo/result/upload\\_images/20241118\\_isee.pdf](https://www.nagoya-u.ac.jp/researchinfo/result/upload_images/20241118_isee.pdf)
- 4) JAXA 宇宙探査イノベーションハブ「Moon to Mars Innovation」RFI 情報提供要請  
[https://www.ihub-tansa.jaxa.jp/rfi/RFI\\_notice.html](https://www.ihub-tansa.jaxa.jp/rfi/RFI_notice.html)  
ハビテーション領域  
<https://www.ihub-tansa.jaxa.jp/rfi/file/Habitation.pdf>

お問い合わせ

学術研究院教授 岩井岳夫（医学系研究科）

TEL 023-628-5401 メール iwai@med.id.yamagata-u.ac.jp

令和7年（2025年）2月6日

## 学生が山形の果物の新しい魅力を創造&発信

### 【本件のポイント】

- 学生が山形の果実の新しい魅力を創造・発信する活動を実施
- 農業従事者のニーズや県内外での市場調査を通じ、規格外果実の六次産業化に着目し、商品開発、県内イベントにて共同出店
- SNSで商品を発信する画像・動画作成講座とコンテストを開催



### 【概要】

本学学生が、山形の果物栽培や販売の活動を通じ、山形の果物の素晴らしさを体感し、新しい創造と発信を目的とした活動を実施した。農業従事者、加工業者を訪問し、果樹栽培等の課題やニーズを調査し、さらに県内外で一般の方からの市場調査を実施した。その結果、規格外品（果実）の六次産業化に注目し、規格外のラ・フランスを用いた加工品の企画と商品開発を行なった。今回、「ドライフルーツ」「ジャム」「生キャラメル」を共同開発し、アンケート調査に基づき、山形の方言でいい塩梅、食べ頃になったラ・フランスを表現した「やんばえ。」ブランドを開発。商品は、県内イベントにて、農家様・加工企業様の方と一緒に店頭にて販売。さらに、「やんばえ。」を題材に、SNSマーケティング講座&コンテストを開催し、PR用画像・動画を作成した。今後は、より本格的な商品開発やSNS発信へと展開を目指す。

### 【背景】

本学学生が、山形の果樹栽培や加工・販売に携わる人々を通じ、モノづくりなどを体感することで、それぞれの学生の視点から、山形の果物の魅力を見出し発信する活動を実施した。この活動を通じ、企画・商品開発やSNS発信の技術のスキルアップが期待された。

今回、山形大学「つなぐちから。」社会共創活動推進スタートアッププロジェクトから支援いただいたフルーツディスカバリーの企画と山形大学校友会支援事業における JUHYO プログラムを繋げ、「縁と縁」代表で本学理学部 OB の大崎雄哉さんに企画・運営いただき、山形における果樹栽培から、加工、販売、プロモーションまでの過程を学生が体感することができた。

### 【活動した内容】

- 1) 生産者への訪問
- 2) 加工企業への訪問
- 3) 商品の規格検討
- 4) 県外へのヒアリング調査
- 5) 商品コンセプト・パッケージ作成
- 6) 県内イベントでの出店
- 7) SNSでの発信に向けて画像・動画作成
- 8) デジタルマーケティングコンテスト開催

\* 1) - 6) は社会共創活動推進スタートアッププロジェクト、7) 8) は、JUHYO プログラムとして実施

### 【今後の展望】

次年度も引き続き、フルーツディスカバリー及び JUHYO プログラムとして、ラ・フランスをテーマとしたイベントを検討する。特に学生が実際の果樹栽培や加工、販売される現場を体感し、オフラインで体験したことをオンラインで発信する仕組みを地域の方や起業を目指す若い方と協働で検討していく。

お問い合わせ

国立大学法人山形大学小白川キャンパス理学部 奥野貴士

TEL : 023-628-4580 メール : okuno@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

令和7年（2025年）2月6日

## 山形の「記憶」を一堂に公開する「山形アーカイブ」を増補！ ～「まちの記憶を残し隊」や同窓会・企業・個人などのデータ約4000点を追加～

### 【本件のポイント】

- 山形大学附属博物館が令和4年（2022年）に立ち上げたプロジェクト「地域の記憶「共創」アーカイブ～まちと人の未来のために～」の成果として、2023年4月に山形の「記憶」を一堂に公開するデジタルアーカイブ「山形アーカイブ」を公開しました。今回は、2023年11月の更新以来、2回目のデータの増補を行いました。
- 山形県内の資料保存機関が所蔵する資料に加え、山形大学の学生サークル「まちの記憶を残し隊」が収集したデータ、さらには同窓会・図書館・自治体・企業・個人から提供いただいたデータを横断的に閲覧できるデジタルアーカイブとしては、全国初の試みとなります。
- 今後も、「山形アーカイブ」をさらに充実させ、歴史教育・生涯学習・まちづくり・観光・文化財保護・防災・医療など、さまざまな地域の課題の解決に役立てていただくことができるものへと成長させてゆきます。



「まちの記憶を残し隊」がインタビューをもとに作成した展示

### 【概要】

山形大学附属博物館は、令和4年（2022年）、山形大学基金の「やまがた未来へつなぐプロジェクト」として、山形市中心市街地の江戸時代から現代までの変化を、現在の街並みの写真やオーラル・ヒストリー（人々の証言）、博物館が収集してきた資料などをデジタル化してインターネット上で共有し、山形大学の学生が地域に愛着を持つきっかけとなることや、まちづくりに取り組む方々に役立てていただくことなどを目的として、「地域の記憶「共創」アーカイブ～まちと人の未来のために～」を立ち上げ、その成果として令和5年（2023年）4月に山形市内の資料保存機関が所蔵する山形地域の資料を一堂に閲覧できるデジタルアーカイブ「山形アーカイブ」を作成・公開しました。今回は2023年11月の更新以来、公開の準備を完了したデータ約4000点を追加しました。

今回「山形アーカイブ」に新たに追加されたのは、山形大学の学生サークル「まちの記憶を残し隊」がまちの人々に実施したインタビューなどをもとに作成した展示データ38点、毎月撮影を行ってきた七日町大通りの写真1091点と山形市内を流れる「山形五堰」の写真16点、山形市内に存在する蔵・町家の写真168点、山形大学の4キャンパスの写真67点、山形県内の店舗のそば・ラーメンの写真61点のほか、山形大学人文社会科学部・理学部の同窓会組織であるふすま同窓会が所蔵する旧制山形高等学校のガラス乾板・写真1802点、山形大学附属図書館が所蔵する林泉文庫50点、十日町に店を構える乃し梅本舗佐藤屋の所蔵する菓子の木型285点（うち3Dデータ6点）、寿虎屋酒造株式会社の所蔵する映像4点などです。

今後も、「まちの記憶を残し隊」の収集した街並みの写真や人々のインタビュー、自治体・企業・個人から提供いただいたデータを順次加えていく予定です。また、「山形アーカイブ」に掲載した地図アプリも地図を充実させるとともに、地図上で過去の風景・建物などを確認できるようなものへとアップデートしていきます。「山形アーカイブ」のさらなる充実と関係機関との連携の強化、活用策の開発を進めることで、歴史教育・生涯学習・まちづくり・観光・文化財保護・防災・医療など、さまざまな地域の課題に対応可能なデジタルアーカイブの構築を目指します。

### 【山形アーカイブ】

- URL : <https://cherry.yum-archives.net/yamagata-archive/>
- 地図アプリ : <https://cherry.yum-archives.net/maplat/>

お問い合わせ

学術研究院准教授（人文社会科学部主担当・附属博物館学芸研究員） 小幡圭祐

メール：[obata@human.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:obata@human.kj.yamagata-u.ac.jp)

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

### 【公開資料の概要】

#### まちの記憶を残し隊

##### ○展示 (38 点) ※新規

山形大学の学生で組織する「まちの記憶を残し隊」が実施したオーラル・ヒストリー（インタビュー）などの成果を展示物にしたものです。展示物と目録の作成はともに「まちの記憶を残し隊」が担当しました。

##### ○七日町 (1091 点) ※追加

山形大学の学生サークル「まちの記憶を残し隊」が毎月末に七日町大通りで撮影している街並みの風景です。撮影・目録作成はともに「まちの記憶を残し隊」が担当しました。

##### ○山形五堰 (16 点) ※追加

山形大学の学生サークル「まちの記憶を残し隊」が撮影した、山形市内を江戸時代から流れる水路「山形五堰」や関連するスポットを撮影したものです。一部は「山形五堰まちあるきマップ」（<https://cherry.yum-archives.net/yamagata-goseki/>）にも活用しています。撮影・目録作成はともに「まちの記憶を残し隊」が担当しました。

##### ○町家・蔵 (168 点) ※新規

山形市内に現存している町家や土蔵の写真です。撮影・目録作成はともに「まちの記憶を残し隊」が担当しました。

##### ○山形大学 (67 点) ※新規

山形大学の4つのキャンパス（小白川・飯田・米沢・鶴岡）の構内を撮影したものです。一部は「山形大学75周年マップ」（<https://cherry.yum-archives.net/yamagata-goseki/>）にも活用しています。撮影・目録作成はともに「まちの記憶を残し隊」が担当しました。

##### ○そば・ラーメン (61 点) ※新規

山形県内のそば・ラーメン店の提供するそば・ラーメンの写真です。撮影・目録作成はともに「まちの記憶を残し隊」が担当しました。

#### 山形大学附属博物館

##### ○地図 (1 点) ※追加

大正時代の山形中心市街地の地図です。目録作成は小幡圭祐（山形大学人文社会科学部准教授・山形大学附属博物館学芸研究員）が、画像撮影は合同会社 AMANE が担当しました。本アーカイブの作成は、令和6年度山形大学データサイエンス教育研究推進センター「データサイエンス教育・研究連携活動助成」の支援を受けました。

##### ○絵画 (1 点) ※追加

山形大学附属博物館が所蔵する絵画です。山形大学広報誌「みどり樹」86号（2024年秋号）に掲載した「半澤二丘像」です。画像撮影は合同会社 AMANE、目録作成は佐藤琴（山形大学附属博物館学芸研究員）が担当しました。本アーカイブの作成は令和5年度文化庁 InnovateMUSEUM 事業の助成を受けました。

#### 山形市郷土館

##### ○写真 (234 点) ※追加

山形市郷土館が所蔵する写真です。画像撮影と目録作成は山形市地域おこし協力隊、メタデータ作成は内野広一（山形大学附属博物館アルバイト（2024年当時））と佐藤琴（山形大学附属博物館学芸研究員）が担当しました。本アーカイブの作成は令和6年度文化庁 InnovateMUSEUM 事業の支援を受けました。

##### ○その他 (5 点) ※追加

明治期に山形市十日町で出版印刷業を営んでいた荒井太四郎家旧蔵の版木の3Dデータ、写真等を2024年度、追加搭載しました。3Dデータ撮影・作成は合同会社 AMANE、目録作成は石黒志保（山形大学人文社会科学部）が担当しました。

#### 最上義光歴史館

##### ○武器 (1 点) ※追加

最上義光歴史館が所蔵する兜です。3Dデータ撮影・作成は合同会社 AMANE、目録作成は揚妻昭一郎（最上義光歴史館学芸員）と佐藤琴（山形大学附属博物館学芸研究員）が担当しました。令和5・6年度国立情報学研究所「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」にかかるユースケース創出課題「地域資料データの継承とオープン化を目指した地域横断型データ共有基盤の構築」の支援を受けました。

##### ○地図 (4 点) ※新規

最上義光歴史館が所蔵する絵図です。画像撮影は合同会社 AMANE、目録作成は揚妻昭一郎（最上義光歴史館学芸員）と佐藤琴（山形大学附属博物館学芸研究員）が担当しました。令和5・6年度国立情報学研究所「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」にかかるユースケース創出課題「地域資料データの継承とオープン化を目指

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

した地域横断型データ共有基盤の構築」の支援を受けました。

### ふすま同窓会

#### ○写真 (1802 点) ※新規

ふすま同窓会が所蔵するガラス乾板とシートフィルムです。1920 年 (大正 10) に山形高等学校の教官として着任した安斎徹 (1889~1976) が撮影したものが大半を占めています。画像撮影と目録作成は内野広一 (山形大学附属博物館アルバイト (2023・24 年当時))、メタデータ作成は佐藤琴 (山形大学附属博物館学芸研究員) が担当しました。本アーカイブの作成は令和 5・6 年度山形大学校友会支援事業「同窓生・同窓会と在校生をつなぐ「山形大学史」資料アーカイブ構築」、令和 6 年度文化庁 Innovate MUSEUM 事業、令和 5・6 年度国立情報学研究所「AI 等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」にかかるユースケース創出課題「地域資料データの継承とオープン化を目指した地域横断型データ共有基盤の構築」の支援を受けました。

### 山形大学附属図書館

#### ○文書 (50 点) ※新規

山形大学附属図書館が所蔵する「林泉文庫」の写真 50 点です。「林泉文庫」とは、米沢の郷土史家である伊佐早謙 (1858-1930) が蒐集した和漢書群です。山形大学附属図書館のほかには、市立米沢図書館、山形県公立大学法人附属図書館、瑞龍院龍門図書館、米沢市上杉博物館等に分散収蔵されています。山形大学附属図書館には 1 万点超の蔵書がありますが、2022 年度に「林泉文庫」のなかでも特に貴重な、琉球・沖縄関係資料 50 点が「貴重図書」として指定されました。その「貴重図書」の目録作成・撮影を行いました。目録作成は新宮学 (山形大学名誉教授)・石黒志保 (山形大学人文社会科学部)、画像データ作成を佐久間佳奈美 (山形大学社会文化創造研究科 修士課程 1 年 (2025 年当時)) と石黒が担当しました。

### 三栄堂

#### ○文書 (52 点) ・写真 (2 点) ・その他 (3 点) ※新規

昭和期に山形市旅籠町で煎餅・菓子を販売していた三栄堂 (荒木商店) の資料です。商店の経営資料・写真や菓子組合・煎餅組合の資料、国産製菓博覧会の賞牌 (メダル)、ラジオに関する資料が含まれています。2024 年度の人文社会科学部の専門教育科目「課題演習 (地域歴史史料)」の履修学生が整理・目録作成・写真撮影を行いました。

### 株式会社佐藤松兵衛商店 (乃し梅本舗)

#### ○その他 (285 点) ※新規

乃し梅本舗佐藤屋が所蔵する菓子木型です。画像撮影および 3D データ撮影・作成は合同会社 AMANE、目録作成は佐藤琴 (山形大学附属博物館学芸研究員) が担当しました。令和 5・6 年度国立情報学研究所「AI 等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」にかかるユースケース創出課題「地域資料データの継承とオープン化を目指した地域横断型データ共有基盤の構築」の支援を受けました。

### 山形市立第一小学校

#### ○地図 (1 点) ※新規

山形市立第一小学校が所蔵する、明治時代の山形中心市街地の地図です。目録作成は小幡圭祐 (山形大学附属博物館学芸研究員)、画像撮影は合同会社 AMANE が担当しました。本アーカイブの作成は、令和 6 年度山形大学データサイエンス教育研究推進センター「データサイエンス教育・研究連携活動助成」の支援を受けました。

### 寿虎屋酒造株式会社

#### ○映像 (4 点) ※新規

山形市で清酒製造業を営む寿虎屋酒造株式会社の 9 代目・大沼勘四郎が撮影した 8 ミリフィルムをデジタル化したものです。1972 年 (昭和 47) に寿ビル虎屋不動産が七日町に建設した寿ビルの建設から完成までの様子、寿ビルに入居したジャスコの開店時の様子が映っています。目録作成は小幡圭祐 (山形大学附属博物館学芸研究員) が担当しました。

### 個人

#### ○地図 (1 点) ※新規

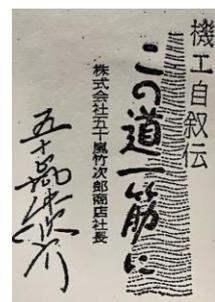
山形城下を流れる農業用水路「山形五堰」の江戸時代の流路図です。目録作成は小幡圭祐 (山形大学附属博物館学芸研究員)、画像撮影は合同会社 AMANE が担当しました。本アーカイブの作成は、令和 6 年度山形大学データサイエンス教育研究推進センター「データサイエンス教育・研究連携活動助成」の支援を受けました。

令和7年(2025年)2月6日

## 大正3年2月16日の蔵王山冬期初登頂関連の新資料が見つかりました (後編)山形のスキーの製作普及に尽力・初登頂した五十嵐竹次郎氏

### 【本件のポイント】

- 大正3年2月16日、村井太郎・黒田毅・神山峯吉・八木藤次郎・五十嵐竹次郎らによって蔵王山冬期初登頂が行われた。
- 初登頂の際に使われたスキーは五十嵐氏が主任として携わった田崎工場（山形スキー倶楽部附属スキー工場）で製作した奥国式の改良版と推定される。
- 五十嵐氏らは事前に蔵王山の気象について研究していた。1914年2月は暖冬少雪であり、初登頂した2月16日は気温が高かったことなどから、最適な気象条件を選んでき、この年月日時間帯以外での蔵王山冬期初登頂は難しかったと考えられる。



「蔵王の樹氷発見」

日本機工新聞 1963年

### 【概要】

大正3年2月16日、村井太郎・黒田毅・神山峯吉・八木藤次郎・五十嵐竹次郎らによって蔵王山冬期初登頂が行われ、樹氷が発見されました。今回見つかった五十嵐氏の手記などの資料から、五十嵐氏が田崎工場（山形スキー倶楽部附属スキー工場）の主任としてスキー製造に助言・スキー用具の購入に尽力・スキーの宣伝普及に携わっていたことが分かりました。また、初登頂の際に使われたスキーは田崎工場が製作した奥国式の改良版と推定されました。一方、五十嵐氏は村井、神山、黒田氏らと県下の高連山踏破を計画し、大正3年1月から山の気象の研究していたことが分かりました。1914年2月は暖冬少雪であり、特に初登頂した2月16日は気温が高かったことから、最適な気象条件を選んでおり、この年月日時間帯以外での蔵王山冬期初登頂は難しかったと考えられます。

### 【これまでの経緯】

大正3年2月16日、村井太郎・黒田毅・神山峯吉・八木藤次郎・五十嵐竹次郎らによって蔵王山冬期初登頂が行われ、樹氷が発見されました。

五十嵐竹次郎氏による手記などの資料が見つかりました（資料1、資料2、資料3）。五十嵐氏が田崎工場（山形スキー倶楽部附属スキー工場）の主任としてスキーの製造に助言するとともに、スキーの部品や用具の購入に尽力し、スキーの宣伝普及にも深く携わっていたことが分かりました。また、五十嵐氏は村井中尉、神山教諭、黒田教官らと県下の高連山踏破を計画し、山の気象や登山の準備品の研究していたことが分かりました。

### 【五十嵐竹次郎氏について】

明治24年(1891年)7月16日上磯町(現在の北海道北斗市)生まれ(上磯町史 年史編 1975年)。大正元年(?)高田市でスキー講習を受講、大正2年田崎工場(山形スキー倶楽部附属スキー工場)主任、大正3年1月大石田のスキー講座に参加、大正3年2月蔵王冬期初登頂(蔵王五十年の歩み 1962年 伊藤五郎著)。大正3年5月日本精工に入社(上磯町史 年史編 1975年)。大正9年五十嵐竹次郎商店を創業、昭和9年FRB製作所(後の東京ベアリング製作所)を設立(産経日本紳士年鑑 第4版 1963年、日本精工五十年史 1967年)。竹次郎ら5人の登山隊は大正3年2月15日はじめて蔵王の樹氷を発見した(上磯町史 年史編 1975年)。大正3年5月上磯出身の五十嵐竹次郎が日本精工で日本で最初のベアリングの生産普及に参画(北斗市HP 北斗市歴史年表 2019年)。

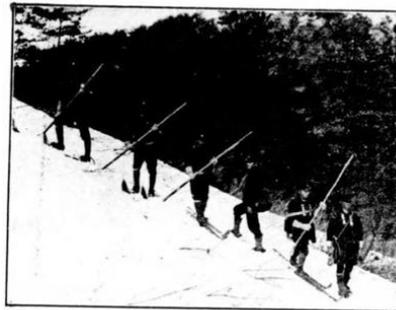
(お問合せ先) 山形大学名誉教授 (環境科学) 樹氷の会会長  
柳澤文孝  
メール icemonster.white(at)gmail.com

## 【スキーについて】

山形のスキーは山形師範学校と山形連隊によって牽引されました。山形連隊は厳寒地における日清戦争 (明治 27 年 1894 年) ・日露戦争 (明治 37 年 1904 年) 、および、八甲田雪中行軍遭難事件 (明治 35 年 1902 年) を教訓としてスキーの導入を進めました。一方、山形師範学校は寒冷地における生徒の通学や一般人の通勤・配達等の安全のためスキーの普及を目指しました (写真 1) 。



小學生スキー通学



郵便配達及電燈會社ノスキー

写真 1 スキー (村井太郎編 大正 3 年 山形スキー倶楽部発行) より

しかし、一般にスキーは知られておらず、指導者もおりませんでした。スキー講習で使われている奥国 (オーストリア) 式スキーは高価 (師範学校教諭 1 ヶ月分の給与くらい) で生徒や一般の人が簡単に購入できるものではありません。また、スキーを製造・修理・販売する会社もありませんでした。そこで、山形師範学校では生徒や一般にも使用できる安価な国産スキーを計画しました (蔵王五十年の歩み 1962 年 伊藤五郎)。岡本正義教諭がスキー板に靴を固定する金具である奥国改良式 (大和式) や霞城式を考案して三澤鍛冶工場で作作してもらいました。スキーの製作は田崎家具店に依頼しています。田崎家具店の田崎工場 (山形スキー倶楽部附属スキー工場) では、荷車大工の石川氏を雇い、五十嵐竹次郎氏を主任として指導を仰いでスキーを完成させました (資料 1) 。

\*奥国改良式 (大和式) : スキー靴の据わる台座は奥国式と同様ですがスプリングを改良したもので、山岳地や競技に適している。

\*霞城式 : 靴台は奥国式と同様ですがスプリングではなく蝶番 2 つでした。安価で最も普及しました。平地に適している。

五十嵐氏は「田崎商店で国産のスキーを作ることにしたのだが、なかなかうまくゆかなくてこまっているとのこと。・・・スキー製造を手伝ってほしいとのこと、早速承諾して、スキーの宣伝普及にとりかかった。部品の購入には直江津の田中鉄工所とか高田の大原商店に出かけ手袋とかは東京まで帰って仕入れたりした。・・・山形県下を廻って普及に努めた。・・・山形三十二連隊にも村井太郎という中将がいて・・・製造にも大いに知恵を貸してもらった。」と記述しています (資料 1) 。また、伊藤五郎氏 (蔵王五十年の歩み 1962 年 伊藤五郎) は「五十嵐竹次郎氏に指導させ早急に製作にかかり、忽ちこれが出来上がった。」と述べています。以上から、五十嵐氏が田崎商店におけるスキーの製造に助言するとともに、スキーの部品や用具の購入に尽力し、スキーの宣伝普及にも深く関わっていたことが分かります。大正 8 年、スキーは山形師範学校の正課となり 500 余名の生徒全員にスキーを購入させています (写真 2) 。



写真2 スキー術解説増訂3版（大正13年 黒田毅著）より

なお、後に、石川氏は山形スキー倶楽部指定工場としてスキーを製造販売する石川忠蔵商店を設立、三澤氏は山形スキー倶楽部指定工場としてスキー金具を製造する三澤林作商店を設立、田崎家具店はスキーを販売する田崎彌蔵商店となっています（写真3）。

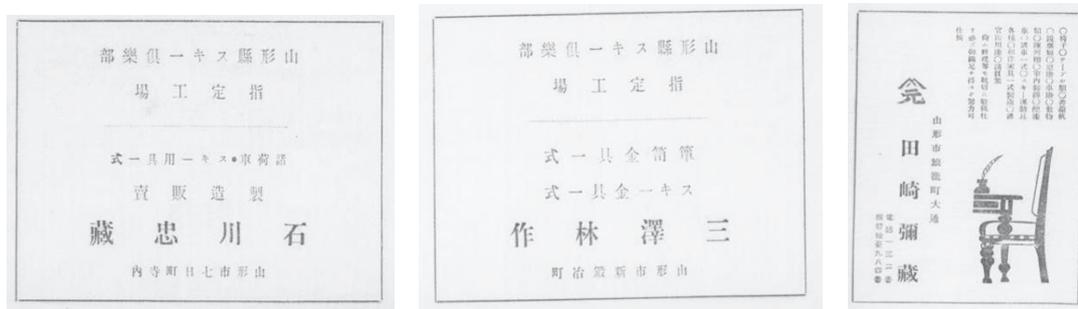


写真3 スキー術解説増訂3版（大正13年 黒田毅著）より

### 【初登頂の際に使われたスキーについて】

初登頂の際に使われたスキーについて、五十嵐氏の手記（資料2）は「スキーは山形田崎工場製の霞城式足台にスプリング付きのもので杖は8尺ぐらいの青竹製の一見槍のごときのものである。」、神山氏の手記（「五十年前の蔵王初登頂」1962年）は「スキーは山形産奥国式、座鉄付き、スプリングあり、杖はやや太い六尺竹棒金具を付す、靴は軍短靴で、ゲートルを巻く。」と記載されておりました。以上から、初登頂の際に使われたスキーは田崎工場が製作した奥国改良式であると推定されます。

### 【初登頂の際の気象について】

資料2には「1月のころから何回となく集まっては、山の気象や登山の準備品、食料品など工夫研究もした」との記載があります。1月に大石田で開催された山形県教育会主催の第一回スキー講習会には、初登頂した5名と高湯温泉から岡崎三郎氏が参加していることから、この講習会を契機として初登頂計画が始められたと推定されます。また、蔵王の気象情報は山形県堀田村大字高湯にあった堀田第三尋常高等小学校（北緯38度11分、東経140度23分、標高900m）の気象観測から得ることができました。現在、山形気象台に残されている高湯のデータは1904年（明治37年）1月から1912年（大正元年）12月までと、大正10年から昭和5年までの一部です。大正10年台冬の堀田小学校付近の積雪深は1~2mでした。一方、初登頂に出発した大正3年2月15日について神山氏の手記「五十年前の蔵王初登頂（1962年）」では「半郷からは爪先上りの雪路で馬の跡さえなく、わずかにカンジキのあとのある60センチ位の積雪のある田舎道である。」、五十嵐氏の手記（資料2）では「半郷から上野という部落を通過して約3里、爪先上りの急坂である。積雪は80センチくらい。」と記されており、積雪は1mに満たなかったのではないかと考えられます。なお、初登頂出発時の写真（写真4）を見ると、木に雪が被っていないことなどから、初登頂時、蔵王温泉付近の積雪は例年より少なく気温が高かったと推定されます。



写真4 1914年2月16日 蔵王山冬期初登頂を記念して発行された絵葉書

気象庁によると、山形市内の1891年から1940年までの2月の気温は $-1.3 \pm 1.1^{\circ}\text{C}$ ・降水量は $76.5 \pm 29.5\text{mm}$ でしたが、1914年2月の平均気温（赤丸）は $0^{\circ}\text{C}$ ・降水量は $42.9\text{mm}$ と暖冬少雪でした（図1）。また、初登頂時前後の最高気温は1914年2月15日 $7.5^{\circ}\text{C}$ 、16日 $6^{\circ}\text{C}$ （赤丸）、17日 $10^{\circ}\text{C}$ でした（図2）。気象庁の1914年2月16日の天気図（図3）によると日本列島は高気圧に覆われていることから暖気が流入して気温が高くなった推定され、降水もなく最深積雪は $0\text{cm}$ でした。16日は7時に出発し昼過ぎに熊野岳に登頂しています。気温遞減率 $0.6^{\circ}\text{C}/100\text{m}$ とすると、吹雪による体感気温の低下は別として、初登頂時間帯の蔵王温泉（900m）・熊野岳山頂（1841m）の気温は $+2^{\circ}\text{C}$ ・ $-4^{\circ}\text{C}$ となります。なお、17日の最高気温は $10^{\circ}\text{C}$ であったことから蔵王では雪崩となる可能性も考えられました。以上からこの年月日時間帯は初登頂に最適であり、これ以外での初登頂は難しかったと考えられます。

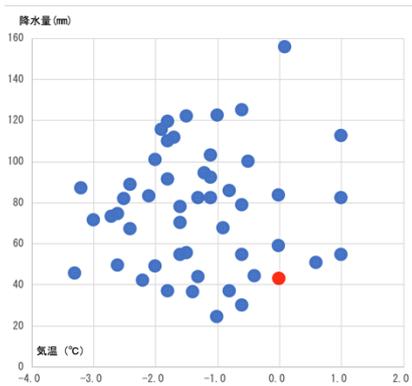


図1 2月の月平均気温と降水量

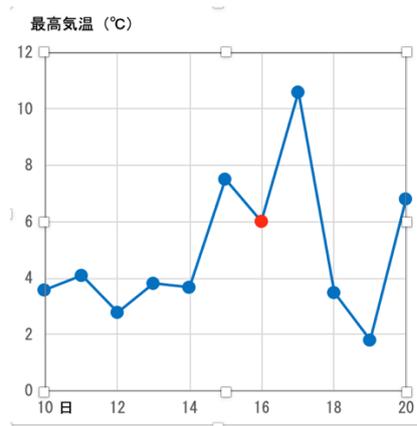


図2 1914年2月10-20日の最高気温

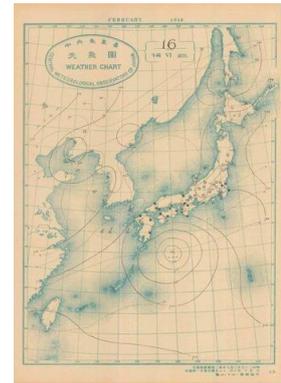


図3 1914年2月16日の天気図

### 【初登頂の際の資料の行方について】

資料2では「蔵王温泉の博物館には最初に冬山登頂をしたときの記念品やわれわれの写真も飾ってあるそうだが、まだ、それは一度も見たことがない。」、資料3では「未踏の蔵王山初登頂を決行すべく午前7時所定の場所に集合して記念撮影をした。（この写真は現在蔵王の記念館に陳列されている。）」と記載されていますが、蔵王温泉には博物館や記念館は存在していません。一方、蔵王五十年の歩み（1962年 伊藤五郎著）には「昭和37年、元師範学校教諭神山峯吉先生が八十幾歳の高齢をもって、五十嵐竹次郎氏同伴、元同校教諭居駒永雄氏の案内でわざわざ蔵王温泉まで足を運ばれ、当時のスキー資料全部を提供された」と記載されていますが、寄付先は分かっておりません。

いずれの資料も、蔵王温泉のどこかに寄贈して、旅館のロビーなどで展示されたのではないかと推定されます。

【資料】

- 資料1 「蔵王の樹氷発見」 日本機工新聞 1963年11月29日 機工自叙伝：この道一筋に 五十嵐竹次郎著  
「機工自叙伝：この道一筋に 五十嵐竹次郎」は日本機工新聞に1963年10月から1964年1月まで掲載され、昭和42年（1967年）に日本機工新聞から出版された「機工自叙伝：この道一筋に（第2集）」に収録されました。

・・・北海道時代スケートをやったことがあったので、スキーもと思ったが、その要領は違うが、運動神経は発達していたので、思ったよりも早く習得することができた。大正二年にさきの合資会社0商店を退職した私は、かつての得意先の好意もあり、いわゆるブローカーをやりながら、相変わらずの地方廻りをし、冬期はスキーの練習に熱を入れた。私は仙台から山形にはいり、洋式家具の製造をやっていた山形市旅籠町の田崎弥蔵商店に行ったところ、スキーがほしてあった。私は非常になつかしく、スキーの話をしたところ、この田崎商店で国産のスキーを作ることにしたんだが、なかなかうまくゆかなくてこまっているとのこと。私はかくかくの事情でスキーを覚え、いくらかスキーについて自信もついてきたところだという話をしたところ、スキー製造を手伝ってほしいとのこと、早速承諾して、スキーの宣伝普及にとりかかった。部品の購入には直江津の田中鉄工所とか高田の大原商店に出かけ手袋とかは東京まで帰って仕入れたりした。私は製造そのものも興味があったが、これを販売するためにはスキーそのものを普及しなければならぬと山形県下を廻って普及に努めた。・・・山形三十二連隊にも村井太郎という中將がいて、すでにスキーを覚え、ベテランであった、私はこの人と知りあい、製造にも大いに知恵を貸してもらった。旅団長の飯田少将も熱心で、軍隊の中でも練習がはじまったが、山形師範学校校長柴崎則義氏はスキーの普及により熱心で、同校には神山、黒田、八木などという熱心な先生方がおられた。私はこれらの方々とスキーをやりながら、宣伝普及にはげみ・・・私はその冬、先の村井中尉、神山、黒田、八木の四氏とともに県下の高連山踏破を計画した。蔵王温泉の山形屋旅館を根城にして研究し、次々に征服していった。大正3年2月15日早朝に最上高湯温泉から冬期の蔵王に初の登頂を試みた。これにはさきの五人と旅館側から五人の人が参加した。・・・途中大吹雪にあつて困難を極めたが、とにかくわれわれは蔵王冬期初登頂に成功した。わが国では私たちがはじめてである。それよりも蔵王の樹氷を発見したものがわれわれが最初である。・・・われわれの発見は科学的にも大いに貢献するところとなったのである。蔵王と私の結びつきはこれがきかけとなってはじまった。蔵王にはその後もたびたび行ったが、蔵王温泉の博物館には最初に冬山登頂をしたときの記念品やわれわれの写真も飾ってあるそうだが、まだ、それは一度も見たことがない。（写真は昭和13年10月ころの五十嵐氏）・・・



- 資料2 「50年まえの蔵王山初登頂の回顧」 軸受検査月報 1964年2月号 五十嵐竹次郎著  
軸受検査月報の1964年2月号は発行元である一般財団法人 日本軸受検査協会にも残っておりませんでした。以下は倉地圭二氏が1964年に貿易クレームと仲裁11巻3号p48-50に引用していたものから抜粋したものです。

・・・1月のころから何回となく集まっては、山の気象や登山の準備品、食料品など工夫研究もした。前日（14日）は土曜日で正午に昼食をすませると山形師範学校に集合してただちに蔵王をめざして勇敢出発した。・・・半郷から上野という部落を通過して約3里、爪先上りの急坂である。積雪は80センチぐらい。・・・はるか向こうに灯が見えた。それは野原の一軒家で夏ならば甘酒茶屋をやっている。早速食事を求めたが何もなし。一碗の雑炊をご馳走になる。これに勢いをえてそこから約2キロ、いまの蔵王温泉（当時の最上高湯温泉）山形屋旅館にたどりついた。・・・

・明けて翌朝、われわれ5名は地元の青年案内人5名を頼みいよいよ未踏の蔵王山初登頂を決行すべく午前7時所定の場所に集合して記念撮影をした。(この写真は現在蔵王の記念館に陳列されている。)・・・服装は当時スキー靴などまったくないので軍隊靴、ゲートル・・・たがいに決意を語りあいながら各自の装備品を点検する。スキーは山形田崎工場製の霞城式足台にスプリング付きのもので杖は8尺ぐらいの青竹製の一見槍のごときのものである。・・・カンジキ隊の案内のもとに登りはじめた。・・・樹氷は先体万客さながら五百羅漢を乱立せるがごとく・・・帰途はスキー隊5名とカンジキ隊5名とは別行動となり、われわれはスキーに滑り止めの荒縄を巻きつけて下山の途に就いた。・・・

「山形の32連隊にも村井太郎という中尉がいて、すでにスキーを覚え、ベテランであった。私は、この人を知り、製造にも大いに加意をかけたもらった。旅団長の飯田少将も熱心で、軍隊のなかでも練習がはじまったが、山形師範学校長柴崎周義氏は、スキーの普及にきわめて熱心で、同校に奥羽スキークラブの事務所さえ設けられることになった。同校には神山、黒田、八木などという熱心な先生方がおられた。

「私は、これらの方々とスキーをやリ、宣伝普及にはげみながら、あるときは、秋田県下まで一人でスキーに出かけたこともある。後年になって、この辺を汽車で通ったとき、よく一人でスキーでこの山道を通ったものだと思ふこともあった。

「私は、その冬、さきの村井中尉、神山、黒田、八木の4氏とともに県下の高遊山山頂を計画した。蔵王温泉の山形屋旅館を根據地にして研究し、次々に征服していった。

「大正3年2月15日早朝に登山高湯温泉から冬山の蔵王に初の登頂を試みた。これにはさきの5人と旅館側から5人の人が参加した。この旅館側から参加した1人には、コナン人形作りの名人といわれ、今日もなお存在している斎藤吉氏もいた。

「途中大穴雪にあって、困難を極めたが、とにかく、われわれは、蔵王冬山登頂に成功した。わが軍では、私達がはじめてである。それ

は、この人を知り、製造にも大いに加意をかけたもらった。旅団長の飯田少将も熱心で、軍隊のなかでも練習がはじまったが、山形師範学校長柴崎周義氏は、スキーの普及にきわめて熱心で、同校に奥羽スキークラブの事務所さえ設けられることになった。同校には神山、黒田、八木などという熱心な先生方がおられた。

「私は、これらの方々とスキーをやリ、宣伝普及にはげみながら、あるときは、秋田県下まで一人でスキーに出かけたこともある。後年になって、この辺を汽車で通ったとき、よく一人でスキーでこの山道を通ったものだと思ふこともあった。

「私は、その冬、さきの村井中尉、神山、黒田、八木の4氏とともに県下の高遊山山頂を計画した。蔵王温泉の山形屋旅館を根據地にして研究し、次々に征服していった。

「大正3年2月15日早朝に登山高湯温泉から冬山の蔵王に初の登頂を試みた。これにはさきの5人と旅館側から5人の人が参加した。この旅館側から参加した1人には、コナン人形作りの名人といわれ、今日もなお存在している斎藤吉氏もいた。

「途中大穴雪にあって、困難を極めたが、とにかく、われわれは、蔵王冬山登頂に成功した。わが軍では、私達がはじめてである。それ

は、この人を知り、製造にも大いに加意をかけたもらった。旅団長の飯田少将も熱心で、軍隊のなかでも練習がはじまったが、山形師範学校長柴崎周義氏は、スキーの普及にきわめて熱心で、同校に奥羽スキークラブの事務所さえ設けられることになった。同校には神山、黒田、八木などという熱心な先生方がおられた。

「私は、これらの方々とスキーをやリ、宣伝普及にはげみながら、あるときは、秋田県下まで一人でスキーに出かけたこともある。後年になって、この辺を汽車で通ったとき、よく一人でスキーでこの山道を通ったものだと思ふこともあった。

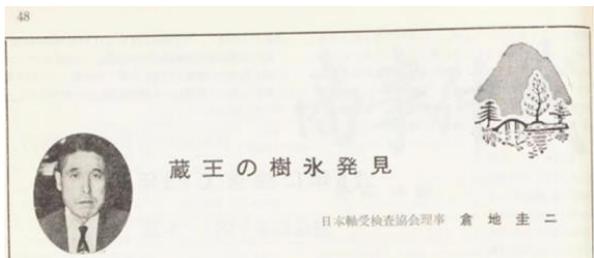
「私は、その冬、さきの村井中尉、神山、黒田、八木の4氏とともに県下の高遊山山頂を計画した。蔵王温泉の山形屋旅館を根據地にして研究し、次々に征服していった。

「大正3年2月15日早朝に登山高湯温泉から冬山の蔵王に初の登頂を試みた。これにはさきの5人と旅館側から5人の人が参加した。この旅館側から参加した1人には、コナン人形作りの名人といわれ、今日もなお存在している斎藤吉氏もいた。

「途中大穴雪にあって、困難を極めたが、とにかく、われわれは、蔵王冬山登頂に成功した。わが軍では、私達がはじめてである。それ

● 資料3 「蔵王の樹氷発見」 貿易クレームと仲裁 11巻3号p48-50 1964年11月 倉地圭二著

・・・冬になると山の征服やら遭難のニュースがしばしば報道される。いまから50年まえ5人の若者が当時珍しかったスキーをはいて蔵王の山頂を初登頂しかの有名な樹氷を発見して元気に下山した快記録がある。5人のうち4人はすでに世を去り唯一の生存者、五十嵐竹次郎氏の手記「50年まえの蔵王山初登頂の回顧」が軸受検査月報誌本年2月号に載っているのので、その一部を転載して50年まえの冬山征服の苦心談を紹介することとしたい。・・・五十嵐氏は一口でいえば立志伝中の人物で、海軍士官希望の一少年から身をおこし苦学力行、現在株式会社五十嵐竹次郎商店と東京ベアリング株式会社を経営している。・・・



蔵王の樹氷発見

日本軸受検査協合理事 倉地圭二

「大正3年2月15日早朝に登山高湯温泉から冬山の蔵王に初の登頂を試みた。これにはさきの5人と旅館側から5人の人が参加した。この旅館側から参加した1人には、コナン人形作りの名人といわれ、今日もなお存在している斎藤吉氏もいた。

「途中大穴雪にあって、困難を極めたが、とにかく、われわれは、蔵王冬山登頂に成功した。わが軍では、私達がはじめてである。それ

は、この人を知り、製造にも大いに加意をかけたもらった。旅団長の飯田少将も熱心で、軍隊のなかでも練習がはじまったが、山形師範学校長柴崎周義氏は、スキーの普及にきわめて熱心で、同校に奥羽スキークラブの事務所さえ設けられることになった。同校には神山、黒田、八木などという熱心な先生方がおられた。

「私は、これらの方々とスキーをやリ、宣伝普及にはげみながら、あるときは、秋田県下まで一人でスキーに出かけたこともある。後年になって、この辺を汽車で通ったとき、よく一人でスキーでこの山道を通ったものだと思ふこともあった。

「私は、その冬、さきの村井中尉、神山、黒田、八木の4氏とともに県下の高遊山山頂を計画した。蔵王温泉の山形屋旅館を根據地にして研究し、次々に征服していった。

「大正3年2月15日早朝に登山高湯温泉から冬山の蔵王に初の登頂を試みた。これにはさきの5人と旅館側から5人の人が参加した。この旅館側から参加した1人には、コナン人形作りの名人といわれ、今日もなお存在している斎藤吉氏もいた。

「途中大穴雪にあって、困難を極めたが、とにかく、われわれは、蔵王冬山登頂に成功した。わが軍では、私達がはじめてである。それ

## 事業背景

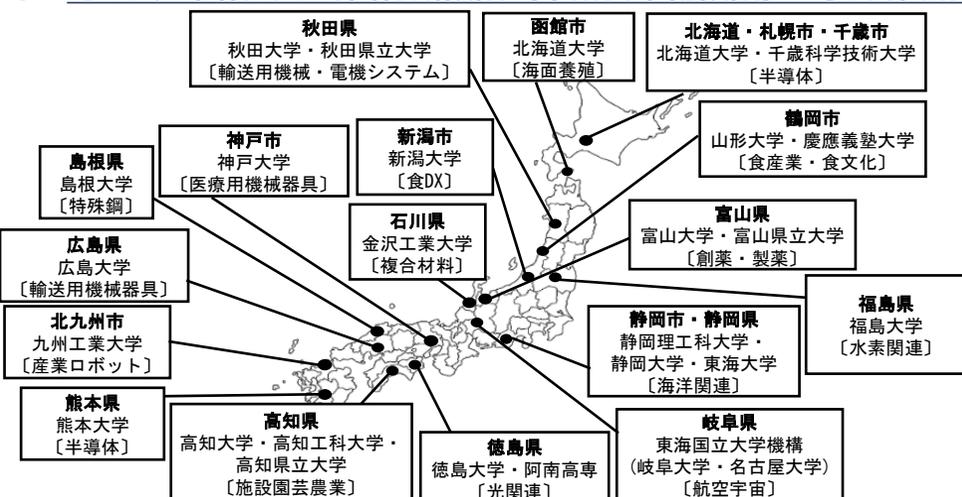
- 地方創生のためには、若者を惹きつける魅力的な地域産業・雇用の創出と、日本全国や世界から学生が集まる大学づくりが重要
- 地域における大学には、強みを持つ特定分野の研究開発や地域ニーズに対応した人材育成等を通じた地方創生への貢献が期待されている

## 事業概要

- 「地方大学・産業創生法」に基づき、首長のリーダーシップの下、地域の産官学が連携し、
  - ・ 地域における大学の振興、これを通じた地域における中核的な産業の振興及び当該産業に関する専門人材の育成を行うことにより、
  - ・ 日本全国や世界中から学生が集まるような「キラリと光る地方大学づくり」を進めるとともに、地域における若者の雇用機会の創出を推進
- 10年間の計画を総理大臣が認定し、原則5年間交付金により取組を支援（※6-9年度目まで、特例的に追加支援する「展開枠」あり）
- 国費支援額の目安は、5千万円～7億円/年（支援額は計画に応じて柔軟に設定可）
- 対象経費等によって補助率は異なる（1/2,2/3,3/4）
- 本交付金の地方負担に対して特別交付税を措置（措置率：道府県0.5、市町村0.8※1。ただし、施設整備等事業については、扱いが異なる※2）
- 申請者は地方公共団体（都道府県、市区町村（共同申請可）等）当該地域に拠点がある大学と企業の参画が必須（高専等も参画可能）
- 交付金を活用するためには、外部有識者による評価委員会の審査をクリアすることが必要
- **年2回公募（5月と10月に申請受付）、令和7年度は、少なくとも6件程度の新規採択を予定（令和6年度は5件を新規採択）**  
**申請には本申請と計画作成支援申請の2種類あり。後者は半年後の本申請に向けて、評価委員会の指摘を聞くために行うもの**
- **地方公共団体での計画作成段階（申請書準備段階）から、内閣府・委託事業者による伴走支援を実施**

採択年度	第1回公募	第2回公募※3
平成30年度	富山県、岐阜県、島根県、広島県、徳島県、高知県※4、北九州市	
令和元年度	秋田県、神戸市	
令和3年度		函館市
令和4年度		石川県、熊本県
令和6年度	静岡市・静岡県	北海道・札幌市・千歳市、 鶴岡市、福島県、新潟市

※1 財力補正あり（詳しくは「特別交付税に関する省令」を参照）  
 ※2 一般補助施設整備等事業債の対象となり、充当率は90%、交付税措置率は元利償還金に対して30%  
 ※3 第2回公募での採択の場合、事業開始は翌年度から  
 ※4 下線については展開枠に移行



## 概要

- 食文化創造都市鶴岡に、**山形大学と慶應義塾大学との連携**により、**ガストロノミックイノベーション※**を主導する**研究開発拠点を構築**し、そこから生まれる**革新的な新食材や技術の活用により産業の創出**を図る。

※本事業におけるガストロノミックイノベーションとは、その土地の気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによって育まれた食そのもの（ガストロノミー）にバイオ等の技術によって大きな変革をし、食産業・食文化に新たな価値を創造すること。

## 取組内容

### （プロジェクトの背景・狙い）

- 鶴岡市の基幹産業は稲作を中心とする農業であり、2014年にはユネスコ食文化創造都市に日本で初めて認定を受けている。また、2001年の慶應先端研開設以降、世界的なバイオ研究拠点の形成に取り組んできた。
- 鶴岡市の強みである農業・食産業、食文化、高等教育機関の集積、鶴岡サイエンスパークを中心としたバイオクラスターを有機的に結合して、一体的に事業を推進することにより、高い相乗効果を実現する。

### （具体的取組）

- 山形大学（農学部）と慶應義塾大学（先端研）とが連携して、①納豆菌粉※1を用いた**新食材開発**、②メタボローム解析技術※2を活用した**高付加価値食品開発**、③新飼料開発やIoTを活用した肉用鶏飼養技術などの**食関連技術等開発**により、新産業の創出を目指す。
- 両大学や企業との共同研究を推進する**鶴岡ガストロノミックイノベーション研究所**の新設や、**トップレベル人材の招へい**によるバイオ技術を活用した**食分野における研究開発強化**、両大学の連携科目の開設等により、両大学の教員が、**食産業の開発分野で活躍できる研究開発人材を育成・輩出**する。
- **メタボローム×農学×食品工学**を駆使した**ガストロノミックイノベーション**を主導する**世界的研究開発拠点の形成**を進め、革新的な新食材や技術の活用による産業創出を図る。



納豆菌粉の生産 納豆菌粉で作ったパン



高付加価値食品開発の例  
メタボローム解析により味の最適化  
が図られたワイン

※1 納豆菌そのものを粉にしたもの。安価で低環境負荷なタンパク質源として食品や飼料への応用が期待される。

※2 生体内の代謝物質（糖、有機酸、アミノ酸などの低分子化合物）の種類や濃度を網羅的に分析する手法のこと。



令和7年（2025年）2月6日

## 文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に採択

山形大学は、文部科学省の令和6年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に提案を行い、このたび採択されました。

本事業は、地域の中核大学や研究の特定分野に強みを持つ大学が、その強みや特色のある研究力を核とした戦略的経営の下、研究力強化を図る環境整備を支援することにより、**国際卓越研究大学とともに我が国全体の研究力の発展を牽引する研究大学群の形成を推進**することを目的としています。

令和6年度は、国公私立合わせて65大学の申請があり、その中から13大学が採択されました。これにより、令和5年度に採択された12大学と合わせ、**全国で25大学がこの事業の対象**となります。

本学は、本事業の採択に加え、令和4年度「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」にも採択されています。これら両事業の相乗効果により、地域中核・特色ある研究大学としてさらなる発展を目指します。

### 【事業概要】

構想名(10年後大学ビジョン)	地域と共創し、持続的な革新技术をもたらす研究大学 ～サステナブル社会の実現と南東北の地域創生に貢献～
提案大学	国立大学法人山形大学
参画機関	国立大学法人東北大学・公立大学法人会津大学・国立大学法人福島大学・公立大学法人宮城大学
事業期間	令和7年度～令和11年度（5年間）
交付予定額	総額55億円
実施内容	<p>本事業において、山形大学は、本学の強みであり今後成長が見込まれる「<b>サステナブルエレクトロニクス</b>」（電子部品・デバイス等の設計、製造、使用、廃棄の全過程で環境負荷を抑え、資源効率向上とリサイクル促進）を核に、参画機関と連携して、新たな社会変革をけん引する人材育成と研究成果の創出を強化し、世界トップレベルの<b>実践的イノベーション</b>による未来の<b>サステナブルな社会</b>の実現と南東北の<b>地域創生</b>に貢献します。</p> <p>具体的には、「世界展開」と「地域展開」の両面からアプローチし、本学を、世界と地域をつなぐ<b>ハブ機関</b>として機能強化します。世界展開では、蘭・ホルストセンターや独・ザクセン州等の海外の研究機関と連携し、基礎研究から社会実装まで一貫して推進し、国内外の学生や研究者が集積する<b>国際的</b>なサステナブル研究拠点を形成します。地域展開では、南東北の主要産業である<b>電子部品・デバイス</b>業界と連携し、<b>サステナブル化</b>を波及させ、地域産業の魅力と国際競争力を高めるとともに、地域で活躍する<b>人材を育成</b>します。さらに、地域課題である高齢化、人口減少に対応するため、「医療・介護・健康」「食・農・環境」分野で開発した有機センサーやデジタル技術の導入を促進し、<b>地域ニーズ</b>に応じた成果の実用化を推進します。</p>

### 参 考

令和6年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」における採択大学の決定について  
(令和7年1月24日 | 独立行政法人日本学術振興会)

[https://www.jsps.go.jp/file/storage/j-press-releases\\_2024/20250124\\_PressRelease.pdf](https://www.jsps.go.jp/file/storage/j-press-releases_2024/20250124_PressRelease.pdf)

文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」に採択  
(令和5年5月11日 | 山形大学)

[https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/1816/8377/8969/3\\_20230511.pdf](https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/1816/8377/8969/3_20230511.pdf)

お問い合わせ

研究情報部（五味・下間）

TEL 023-628-4844 メール [yu-k-sangaku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:yu-k-sangaku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp)



J-PEAKS



山形大学  
Yamagata University

## 文部科学省

# 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)

## 採 択

提案概要 | 地域と共創し、持続的な革新技術をもたらす研究大学  
～サステナブル社会の実現と南東北の地域創生に貢献～  
事業期間 | 令和7年度～令和11年度（5年間）  
交付予定 | 総額55億円（研究設備費 30億円、人件費・活動費 25億円）

提案大学 **国立大学法人山形大学**

参画機関 国立大学法人東北大学・公立大学法人会津大学  
国立大学法人福島大学・公立大学法人宮城大学

東北大学  
TOHOKU  
UNIVERSITY

会津大学

国立大学法人  
福島大学  
Fukushima University

MYU  
公立大学法人 宮城大学

**文部科学省**

**地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)**

**制度概要**

# 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業

令和4年度第2次補正予算額 1,498億円

## (Program for Forming Japan's Peak Research Universities : J-PEAKS)



### 背景・課題

- 近年、我が国の研究力の低下が指摘されている中、**日本全体の研究力の発展をけん引する研究大学群の形成のため**には、大学ファンドによる国際卓越研究大学と、**地域中核・特色ある研究大学\***が共に発展するスキームの構築が必要不可欠
  - \* ①強みを持つ特定の学術領域の卓越性を発展させる機能、②地球規模の課題解決や社会変革に繋がるイノベーションを創出する機能、③地域産業の生産性向上や雇用創出を牽引し、地方自治体、産業界、金融業界等との協働を通じ、地域課題解決をリードする機能：これらのいずれか又は組み合わせた機能を有する大学
- そのためには、地域中核・特色ある研究大学が、特色ある研究の国際展開や、地域の経済社会や国内外の課題解決を図っていけるよう、特定分野の強みを核に大学の活動を拡張させるとともに、大学間での効果的な連携を図ることで、研究大学群として発展していくことが重要

### 事業内容

研究力の飛躍的向上に向けて、**各大学が10年後の大学ビジョンを描き、そこに至るための、強みや特色ある研究力を核とした経営戦略の下**、大学間での連携\*も図りつつ、研究活動の国際展開や社会実装の加速・レベルアップの実現に必要なハードとソフトが一体となった**環境構築の取組を支援**

\* 連携を行うことが目的ではなく、学内に不足するリソースや課題を戦略的に補完するために連携

【支援のスキーム】



### 【事業概要】

- 事業実施期間：令和5年度～（5年間、基金により継続的に支援）
- 支援件数：25件（令和5年度採択：12件、令和6年度採択：13件）
- 支援対象：
  - 強みや特色ある研究や社会実装の研究拠点（WPIやCOI-NEXT等の拠点形成事業、地方自治体・各府省施策、大学独自の取組等によるもの）等を有する国公立大学のうち、**研究力の向上戦略を構築した上で、全学としてリソースを投下する大学**
  - ※ 5年度目を目途に評価を行い、進捗に応じて、必要な支援を展開できるように、文部科学省及びJSPSにおいて取組を継続的に支援（最長10年を目途）
- 支援内容：5年間、基金により継続的に支援 最大55億円程度
  - A) 戦略的実行経費（最大25億円程度（5億円程度/年）/件）
    - 研究戦略の企画・実行、技術支援等を行う専門人材の件数、調査その他研究力の向上戦略の実行に必要な経費
  - B) 研究設備等整備経費（最大30億円程度/件）
    - 研究機器購入費、研究・事務DX、研究機器共用の推進を含む研究環境の高度化に向けて必要となる環境整備費等

- 強みを有する大学間での連携による相乗効果で、研究力強化に必要な取り組みの効果を最大化
- 特定領域のTOP10%論文が世界最高水準の研究大学並みに
- 強みや特色に基づく共同研究や起業の件数の大幅増加、持続的な成長を可能とする企業や自治体等からの外部資金獲得
- ✓ 研究を核とした大学の国際競争力強化や経営リソースの拡張
- ✓ 戦略的にメリハリをつけて経営リソースを最大限活用する文化の定着

我が国の科学技術力の飛躍的向上  
地域の社会経済を活性化し課題解決に貢献する研究大学群の形成



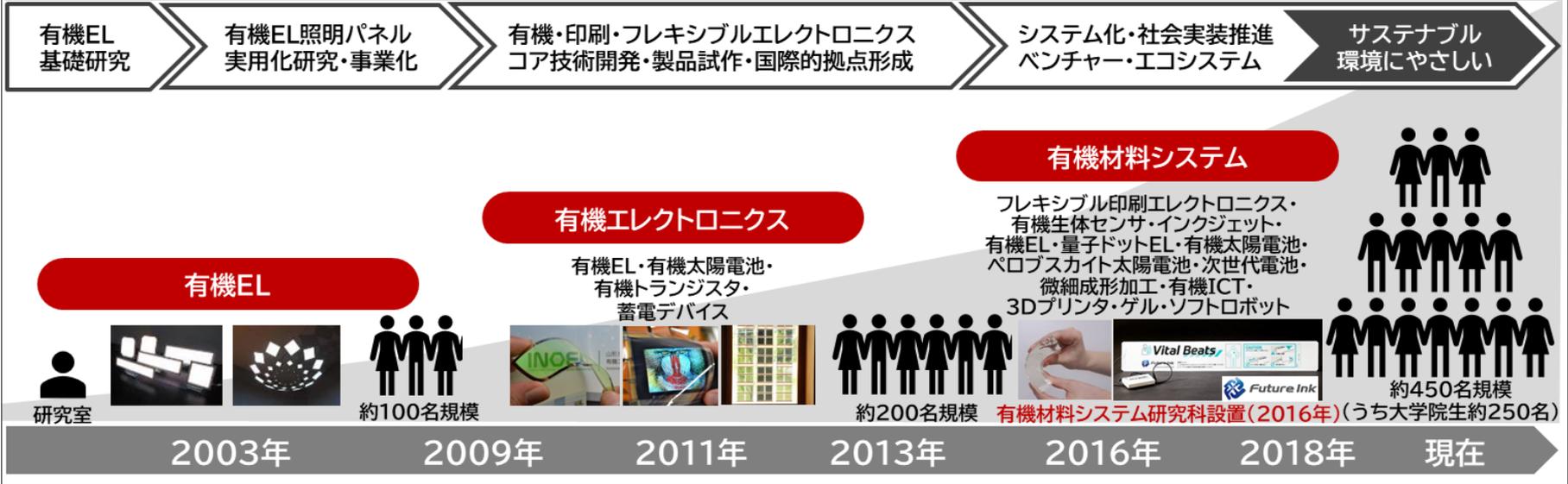
文部科学省

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)

山形大学\_構想概要

# 山形大学の持つ特色や強み | 有機材料システム研究

## 有機材料研究の進展と有機材料システム研究拠点への発展



## 有機材料の基礎・応用から社会実装に至るまでの一貫通貫の研究拠点



# 研究力が向上した10年後の大学ビジョン

## 地域と共創し、実践的で持続的な革新技術をもたらす研究大学

新たな社会変革を牽引する人材と知を創出し、世界トップレベルの実践的イノベーションによる未来の持続可能な社会の実現と南東北の地域創生に貢献

### 大学ビジョン実現にむけた戦略

#### 研究の多様性・卓越性

有機材料システムを持続可能エレクトロニクスに進化させる研究成果を創出するとともに、強い研究分野の裾野を拡大して、外部資金獲得増に繋げる

#### イノベーション・社会実装

国際的なネットワークハブ機能を強化して、スタートアップ等新しい価値を創造し、それらを社会実装に繋げる実践力ある人材を育成する

#### 地域創生

南東北に持続可能化を波及させ、地域産業の魅力を高めるとともに、地域において活躍する人材を育成して地域創生に貢献する

#### 大学改革

研究者の研究時間を確保して研究力の飛躍的な向上と安定した経営基盤を確立し、多様な人材が生き生きと活躍する大学経営を実現する



### 持続可能な社会の実現 南東北の地域創生への貢献



### 地域中核・特色ある研究大学

地域と共創し、実践的で持続的な革新技術をもたらす研究大学



10年後

## 事業概要

- ✓ 本事業では、本学の強みであり今後成長が見込まれる「**サステナブルエレクトロニクス**」(電子部品・電子デバイス等の設計、製造、使用、廃棄の全過程で環境負荷を抑え、資源効率向上とリサイクル促進)を核に、参画機関と連携して、新たな社会変革をけん引する人材育成と研究成果の創出を強化し、世界トップレベルの**実践的イノベーション**による未来の**サステナブル**な社会の実現と**南東北**の地域創生に貢献します。
- ✓ 具体的には、「**世界展開**」と「**地域展開**」の両面からアプローチし、本学を、世界と地域をつなぐ**ハブ機関**として機能強化します。
- ✓ 世界展開では、蘭・ホルストセンターや独・ザクセン州等の海外の研究機関と連携し、基礎研究から社会実装まで一貫して推進し、国内外の学生や研究者が集積する**国際的**なサステナブル研究拠点を形成します。
- ✓ 地域展開では、南東北の主要産業である**電子部品・デバイス**業界と連携し、サステナブル化を波及させ、地域産業の**魅力**と**国際競争力**を高めるとともに、地域で活躍する**人材を育成**します。さらに、地域課題である高齢化、人口減少に対応するため、「**医療・介護・健康**」「**食・農・環境**」分野で開発した有機センサーやデジタル技術の導入を促進し、**地域ニーズ**に応じた成果の実用化を推進します。

# 社会課題の解決に向けて

## 持続可能で環境に優しいエレクトロニクス技術

世界の潮流“サーキュラーエコノミー”のコア技術であるサステナブルエレクトロニクスのリーダーとなり、南東北(山形・宮城・福島)の主力産業「電子部品・デバイス・電子回路」をサステナブル化

「Society 5.0」の実現には、“有機エレクトロニクス”が重要な技術

### Society 5.0

サイバー空間とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、**経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)の実現**  
このサイバーとフィジカルをつなぐ技術が**センサ**であり、**有機エレクトロニクス**の具体的な形として製品化したもの

【内閣府作成】



拡大するエレクトロニクスの社会問題「E-Waste問題」

### E-Waste問題

- ✓ 電化製品などの電子デバイスの廃棄が急速に増加
- ✓ 製造における洗浄水、汚染水への規制の強化
- ✓ 関連する環境保護の対策コストも非常に大きい

E-Waste: Electronic and Electrical Wastes (電気電子機器廃棄物)の略称



南東北(山形・宮城・福島)「電子部品・デバイス・電子回路」の割合が高い

### 東北の産業の特徴

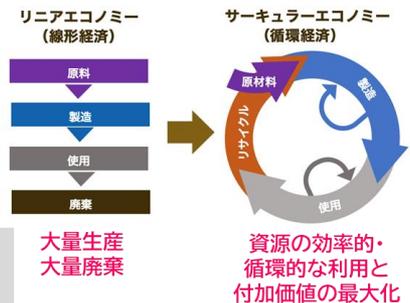
全国比をみると、東北における域内総生産(6.4%)・製造品出荷額等(5.8%)は、人口比6.7%と比較して低い水準にある一方、製造業では「**電子部品・デバイス・電子回路**」は高い水準(16.9%)にある。特に、**南東北地域(山形・宮城・福島)**が大きなウエイトを占めている。



### サーキュラーエコノミー(循環経済)

欧州ではエレクトロニクス分野での環境保全に関する動きが活発化。我が国においても、早急に循環型経済の実現に資するサステナブル技術を構築し、その技術の有効性を検証すると共に産業界へ展開する必要がある。

欧州では、この分野でのサステナビリティを重要視した大型プロジェクトおよびルール作りが先行



サステナブルエレクトロニクスの研究開発が急務

持続可能で環境にやさしいエレクトロニクス技術

印刷エレクトロニクスを主軸とする省エネルギー・低コストプロセスと低環境負荷な素材を用いた次世代センサ・デバイス等の創製

サステナブルな社会の実現と南東北の地域創生への貢献

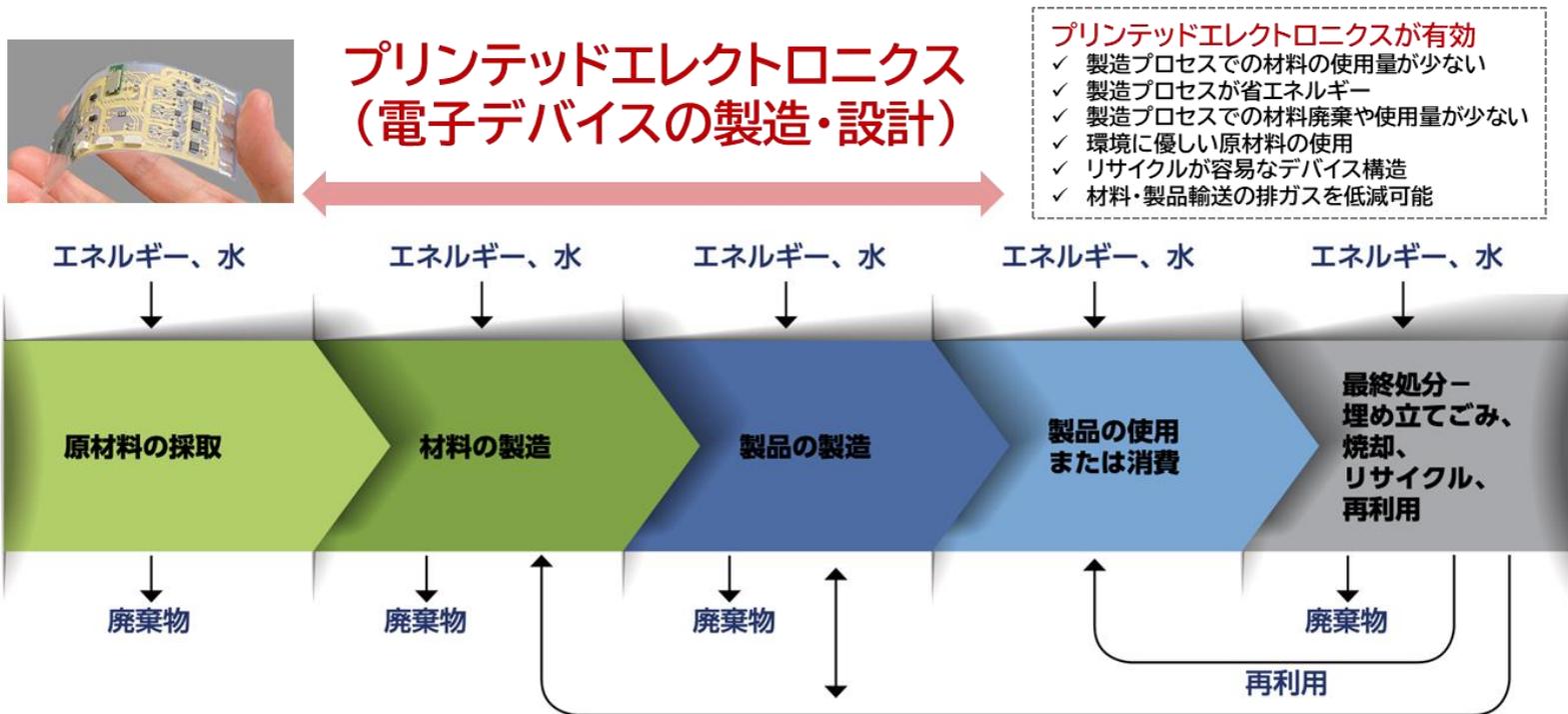
# 有機エレクトロニクスからサステナブルエレクトロニクスへ

## 有機材料システム研究のサステナブル化

本学の強み「有機材料」と「プリントドエレクトロニクス」を基礎に、LCAとインフォマティクスを融合させ、本事業で強化する先端設備・研究人材・研究支援体制・国内外の連携で、世界トップレベルのサステナブルエレクトロニクス研究拠点を形成する。

LCA : Life Cycle Assessment ライフサイクルアセスメント : 環境影響評価  
 製品のライフサイクル全体(原材料から製造、使用、寿命、リサイクル、処分まで)にわたる環境負荷を多角的に定量化する評価手法

## ライフサイクル思考に基づくエレクトロニクス研究開発



# サステナブルエレクトロニクスの世界展開

## サステナブルエレクトロニクス研究拠点の形成

「サステナブルエレクトロニクス」が展開されている**欧米の大学・研究機関**と連携するとともに、国内のサプライチェーン企業による**コンソーシアム**を設置し共同研究を進める。また、研究開発成果の実証試験を進め、企業や地域産業・自治体と連携して**試作・製造**した素材・デバイス等を、**世界に発信**し社会実装に繋げる。

## イノベーション創出とサステナビリティ実現のエンジンとなる



## サステナブルエレクトロニクスの世界展開

山形大学とオランダ・TNOホルストセンターが包括的な連携協定を締結  
～サステイナブル・エレクトロニクスでイノベーションを推進～



協定締結式

令和6年11月13日(水) 会場 | The Okura Tokyo



日蘭ジョイントワークショップ

令和6年9月2日(月) 会場 | 山形大学

## 地域産業の魅力と国際競争力の向上

### 南東北を世界と戦えるサステナブル産業の応用実証拠点へ

本学のサステナブルエレクトロニクス分野における**世界市場**の動向を的確に把握する情報収集力を活かし、南東北地域の中堅・中小企業への**技術移転**と**社会実装**を支援する。併せて、地域産業を担う**人材の育成**にも取り組む。これにより、サステナブルエレクトロニクス技術を地域の電子部品・デバイス・電子回路業界と連携して推進し、**環境規制**が強化される世界市場でも戦える競争力の向上を図る。

### 世界のバリューチェーンを繋ぐイノベーションプロデュース



企業との包括的連携協定 令和6年4月24日(山形大学)



ソセツパシナ産学連携コンソーシアム研究会 令和6年12月12日(東京)

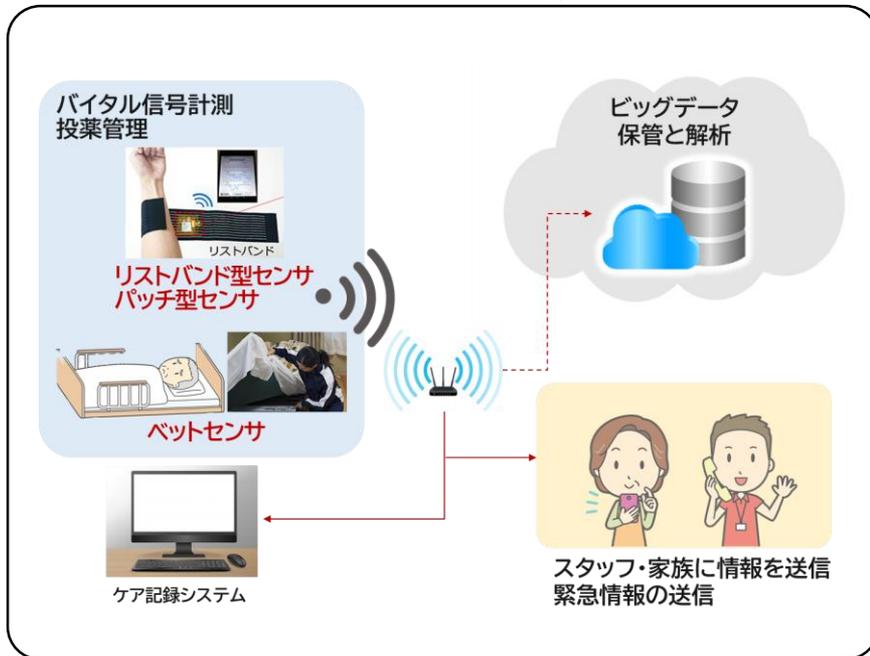
## 研究成果の社会実装と地域産業の活性化

### 研究成果の社会実装と地域産業の活性化

研究開発した素材や技術を活用し、有機センサーなどを製作して、「医療・介護・健康」、「食・農・環境」分野に展開するとともに、地域産業の活性化に貢献する。そのために、医学・農学・社会科学などの総合大学の強みを活かし、サステナブルエレクトロニクスとの融合研究を推進する。

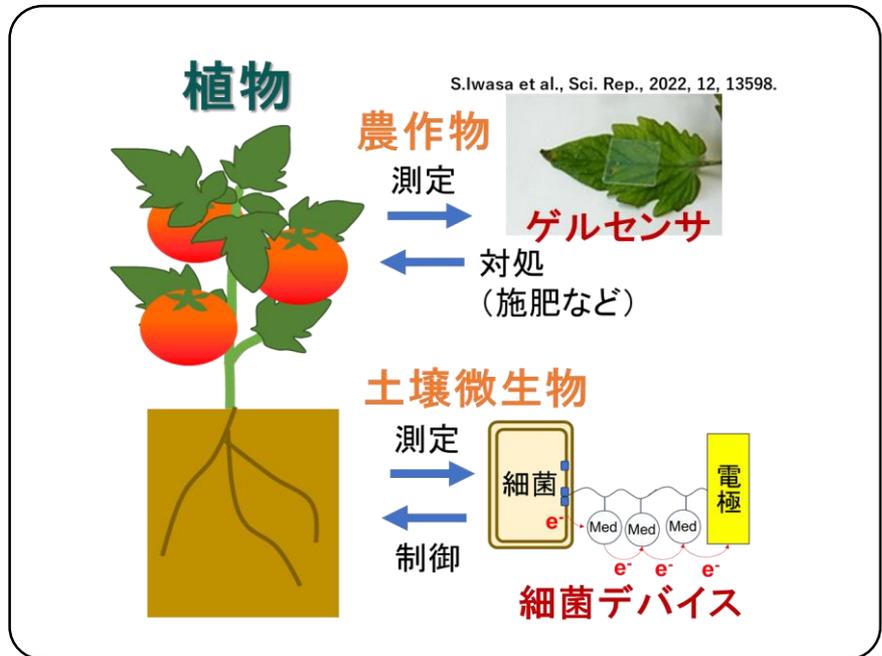
### 有機材料システムの研究成果を活用した地域課題解決・社会実装

#### 【有機材料×医療・介護・健康】



介護施設や自宅での健康管理や見守りサービス  
⇒ **バイタル情報のモニタリング**

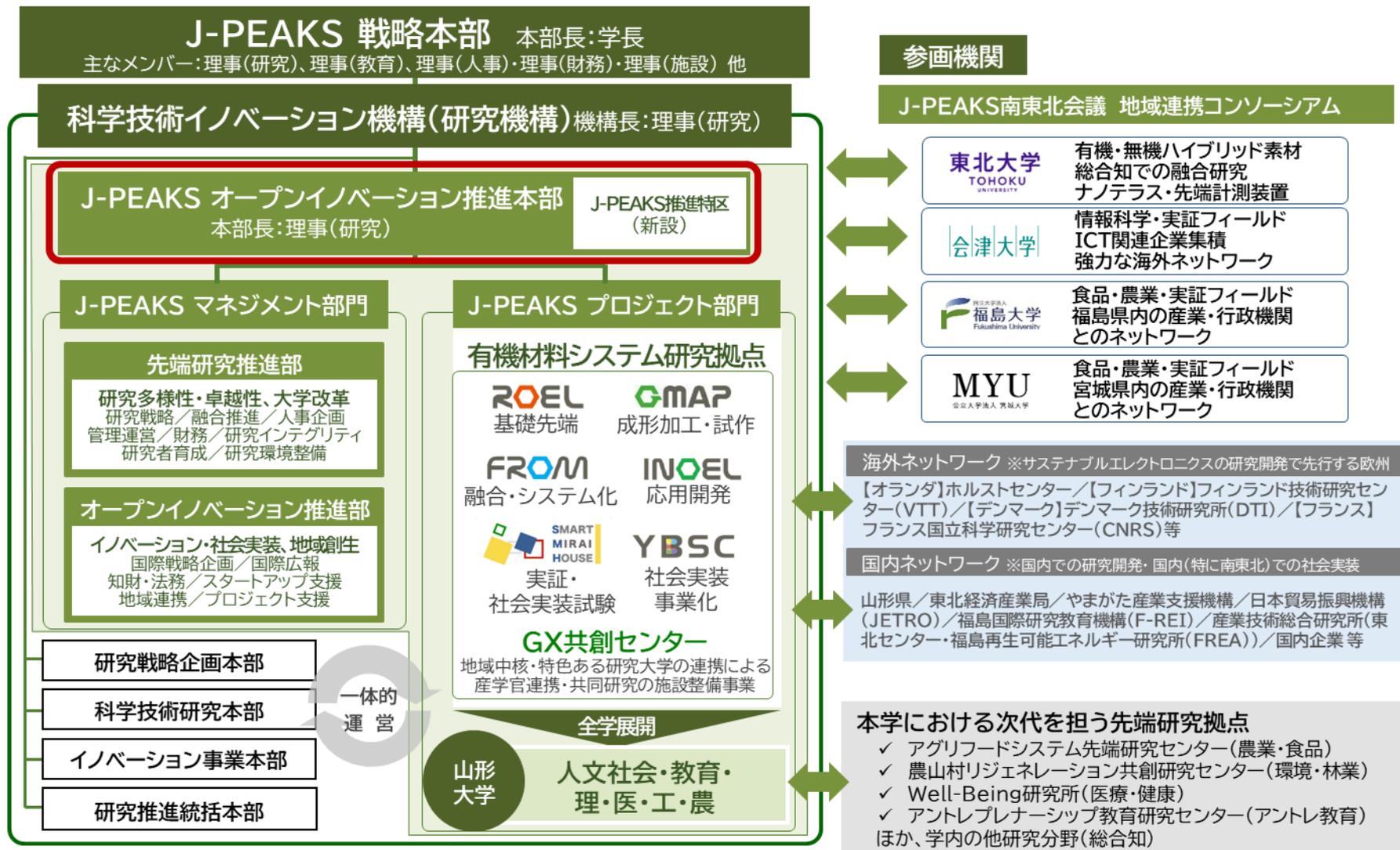
#### 【有機材料×食・農・環境】



栽培中の農作物の健康状態・成分の見える化と制御  
⇒ **栽培のデジタル管理**

# J-PEAKS推進体制

学長直下、全学、参画機関、地域、企業、国際研究機関等との実質連携が可能な**推進体制**を構築



令和7年(2025年)2月6日  
山形大学

\*詳細は別添の資料をご覧ください。

## 1. YAAS 第2回研究成果報告会を開催します。



山形大学アグリフードシステム先端研究センター（YAAS）は、第2回目となる研究成果報告会を以下のとおり開催いたします。今回の研究報告会では、その成果や実績を紹介するとともに、新たな共創を生み出すための企業様、自治体様等との相談ブースも準備します。また、同センターが目指す「研究成果に基づく起業」についてメンバーも勉強する機会として、鶴岡市で食に関わる起業を行っている株式会社フェルメクティスの大橋様による基調講演「発酵タンパク質としての納豆菌の可能性」も企画しました。

日時：2025年3月3日（月） 14:30～16:30

場所：東京第一ホテル鶴岡 鳳凰の間（鶴岡市錦町2-10）

## 2. 「女性アスリートのコンディショニング」～講演会のご案内～



月経をはじめとする女性特有の問題は、悩みも状態も人それぞれ。上手に付き合い、より豊かな日々にしたいものですね。女性アスリートの方だけでなく、指導者、保護者の皆さん、毎月の生理にお悩みの皆さん、男性の皆さん、どなたでも大歓迎です。

日時：2025年2月22日（土） 14時30分～ ※14時開場・受付 16時終了予定

講師：井上 聡子氏（さとこ女性クリニック院長）

対象：山形大学生、教職員、県内アスリートとその指導者・保護者、一般の方

※男女問わず、障がいの有無関係なく、どなたでもご参加いただけます。

参加料：無料です。お気軽にお申込みください。

## 3. 産学金連携コーディネーター認定証授与式 記念セミナー・地域交流研修会を開催

令和6年度に実施した金融機関職員を対象とした事業性目利き研修を受講し、研修を活かした県内企業に対する経営支援活動を実践したレポートを提出する等の一定の条件を満たした者に対して、「産学金連携コーディネーター」の認定証を授与します。認定証授与式と併せて、各地域の受講者の代表が集い、優良事例を発表する地域交流研修会を行います。また、記念講演として、中小企業庁事業環境部金融課長の野沢泰志氏を招き、金融機関によるモニタリング機能の高度化の施策に関する説明をいただきます。

日時：令和7年2月14日（金）13:00～17:30

場所：山形テルサ3F 研修室A

## 4. 令和7年度山形大学入学者選抜個別学力検査等の取材について

令和7年度山形大学入学者選抜個別学力検査等を、2月25日(火)、26日(水)及び3月12日(水)に実施します。取材を希望される際は、申出期限までに各学部等の入試担当にご連絡願います。個別学力検査等の円滑な実施にご協力をお願いいたします。

## 5. 山形大学学位記授与式等の取材に対するお願い

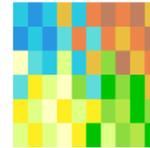
各キャンパス並びに各附属学校園において挙げる学位記授与式等についてご案内します。取材の際は、式典の円滑な進行にご協力くださいますようお願いいたします。

令和7年（2025年）2月6日

## YAAS第2回研究成果報告会を開催します。

### 【本件のポイント】

- 2025年3月3日(月)、山形大学アグリフードシステム先端研究センター（YAAS）は、第2回目となる研究成果報告会を開催いたします。
- 研究発表の他、地域産学官連携協議会による「企業相談ブース」では、本学のコーディネーターによる無料相談を行い、企業様との共同研究の拡大および地域貢献を目指しています。



YAAS  
YAMAGATA UNIVERSITY  
ADVANCED AGRI-FOOD SYSTEM  
RESEARCH CENTER

### 【概要】

山形大学アグリフードシステム先端研究センター（YAAS）は、これまで本学農学部で推進してまいりました「スマート・テロワール構想」を基盤に、総合大学である山形大学各学部の総合知を結集することで、食と農をつなぎ、食と農に関する諸課題の解決に資する研究とその成果の社会実装に向けた活動を行っています。

同センターは令和4年に設立され、文部科学省から5年間の支援を受けながら、国内外で最先端のアグリフードシステム研究拠点を目指した研究の成果、社会実装の実績、さらには設備の充実を図っています。同センターは、山形大学の総合知を1次、2次、3次産業に融合することで新しい社会システムを創るための「イノベーション・commons」として、地域の多くのステークホルダーとの共創を行うことも特徴としています。

今年度は5年の整備期間の3年目であり、メンバーによる研究の成果や社会実装の実績も順調に生まれてきております。今回の研究報告会では、その成果や実績をご紹介しますとともに、新たな共創を生み出すための企業様、自治体様等との相談ブースも準備します。また、同センターが目指す「研究成果に基づく起業」についてメンバーも勉強する機会として、鶴岡市で食に関わる起業を行っている株式会社フェルメクティスの大橋様による基調講演「発酵タンパク質としての納豆菌の可能性」も企画しました。ご興味・ご関心のある方のご参加をお待ちしております。

### 【背景】

日本の食料自給率は、主要先進国の中でも最低の水準であることはよく知られています。地球規模の気候変動、人口増加、国内農業人口減少などが追い打ちをかけ、食と農をとりまく状況は悪化の一途を辿っています。

そのような難題が山積する我が国において、未来の社会を支える食と農の実現を使命として新たな仕組みを確立し、持続可能な農業と循環型の社会を目指し、庄内地域に食料自給圏を構築するためのプロジェクトに取り組んでいます。

### 【開催日程】

日時： 2025年3月3日（月） 14:30～16:30  
場所： 東京第一ホテル鶴岡 鳳凰の間（鶴岡市錦町2-10）

### ※用語解説

1. スマート・テロワール：洗練を意味する「スマート」と、地域独自の風土・景観・品種・栽培法などを表すフランス語の「テロワール」を組み合わせた造語。地域内で完結できる“循環型の経済圏（農村社会）”を指す。

お問い合わせ

山形大学鶴岡キャンパス事務部総務課研究・社会共創室

TEL 0235-28-2834 メール [yu-nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:yu-nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp)

農村のまんなかに食と農を繋ぐ  
イノベーション・コモンズ

# YAAS

山形大学アグリフードシステム  
先端研究センター

## 第2回研究成果報告会

2025年 **3月3日** 月 14:30-16:30

会場: 東京第一ホテル鶴岡 鳳凰の間(1階)

### 基調講演

「発酵タンパク質としての  
納豆菌の可能性」

フェルメクテス株式会社 代表取締役・CEO

大橋 由明 氏

### 研究発表「美味しさと香り」

山形大学副学長・センター長・教授 村山 秀樹

ポスター発表 (21名)

### 企業相談ブース

山形大学 コーディネーター 高橋 政幸

参加申込みはこちらから

申込締切 **2025年2月21日(金)**

お問い合わせ 山形大学アグリフードシステム先端研究センター

YAAS HP <https://yaas.jp/> TEL 0235-28-2834



YAAS

YAMAGATA UNIVERSITY  
ADVANCED AGRIFOOD SYSTEM  
RESEARCH CENTER

# プログラム

## 山形大学アグリフードシステム先端研究センター 第2回研究成果報告会

14:30 開会挨拶・センター紹介  
山形大学農学部長・副センター長・教授 渡部 徹

14:35 基調講演  
「発酵タンパク質としての納豆菌の可能性」  
フェルメクテス株式会社 代表取締役・CEO 大橋 由明 氏

15:05 研究発表  
「美味しさと香り」  
山形大学副学長・センター長・教授 村山 秀樹

15:35 ポスター発表

・市浦 茂	助教	・鍋島 朋之	准教授
・江頭 宏昌	教授	・東原 知哉	教授
・片平 光彦	教授	・星野 友紀	教授
・小林 翔	准教授	塩谷 直弘	大学院生(農学部 星野研究室)
・今田 恒夫	教授	・堀口 健一	教授
清野 諭	助教(Well-Being研究所)	Meng Tong	研究支援者(農学部 堀口研究室)
・五領田 小百合	助教	・宮城 敦子	准教授
・佐藤 智	准教授	・矢口 友理	准教授
・陳 奥飛	助教	・矢野 裕子	助教
・程 為国	教授	・渡部 徹	教授
・中坪 あゆみ	助教		

※五十音順

企業相談ブース  
山形大学 コーディネーター 高橋 政幸

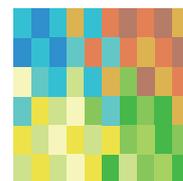
16:20 閉会挨拶  
山形大学農学部長・副センター長・教授 渡部 徹

「研究シーズ集」最新版

農学部HP <https://www.tr.yamagata-u.ac.jp/seeds.html>

農学部地域産学官連携協議会HP

<https://www.tr.yamagata-u.ac.jp/sangakukan/sangakukan.html>



YAAS

YAMAGATA UNIVERSITY  
ADVANCED AGRI-FOOD SYSTEM  
RESEARCH CENTER

# PRESS RELEASE

令和7年（2025年）2月6日

## 「女性アスリートのコンディショニング」 ～講演会のご案内～

### 【本件のポイント】

- 女性アスリートのコンディショニングについて、ヤマガタアスリートアカデミーが主催する講演会です。
- さとこ女性クリニック院長の井上聡子氏を講師に招き、女性アスリートが抱える特有の問題について理解を深め、正しい知識を学びます。
- 指導者や保護者、月経に悩む方など、どなたでも参加可能で、各々の中で向き合い方を見つけ、パフォーマンスの向上に繋げることを目指します。



### 【概要】

女性アスリートを取り巻く問題に、利用可能エネルギー不足・視床下部性無月経・骨粗しょう症を問題提起した「女性アスリートの三主徴」があります。本講演会では、月経を中心に理解を深め、健康を損なうことなく安心安全にスポーツを行うために、正しい知識を学ぶ機会となっています。

女性特有の問題であるからこそ悩みや状態は人それぞれです。正しい知識を持ってそれぞれの向き合い方を見つけ、パフォーマンスの向上に繋がいませんか。

### 【詳細】 ※託児やサポートについては、チラシ裏面をご確認ください。

日時：令和7年2月22日（土） 14時30分～16時 ※14時から受付開始  
会場：国際交流プラザ山形ビッグウィング 大会議室  
講師：さとこ女性クリニック院長 井上聡子氏  
対象：女性アスリートとその指導者、保護者、山形大学生、月経にお悩みの方  
参加料：無料  
その他：事前申込制、託児ブースあり（事前申込・先着順）、サポート体制あり

### 【申込】

URL または QR コードよりお申込ください。団体でのお申込も可能です。  
<https://forms.office.com/r/aFiueRnZqA>



### 【（財）森の学校 寄附講座 ヤマガタアスリートアカデミーについて】

本アカデミーは、トップアスリート育成の実績を持つ教育指導体制を整備し、大学資源を活用した科学的な手法による教育研究活動を通じて、陸上競技でのトップアスリートや関連する人材を育成するとともに、山形県におけるスポーツを通じた人材育成支援システムの構築を目的に、令和6年5月1日、小白川キャンパスに設置されました（令和11年3月31日まで）。

“共創”をコンセプトに教育研究活動のソフト面とハード面の一体的な取組みの展開・実践的教育による“一流”の指導者やアスリートを育成し、第一線で活躍する人材の輩出・地域での人材や知の循環を通じて、山形における継続的な人材育成機能構築を目指し、山形大学独自の展開を行います。

#### お問い合わせ

（財）森の学校 寄附講座 ヤマガタアスリートアカデミー担当（熊坂・青柳）  
TEL 023-628-4122（イベントについて）  
023-628-4917（総務）  
MAIL [yu-kj-yamaasu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:yu-kj-yamaasu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp)

# ヤマガタアスリートアカデミー主催

2025年2月22日（土） 14：30 14時開場・16時終了予定

山形国際交流プラザ 山形ビッグウィング 大会議室

参加料 無料

託児ブースあり※先着順となります

## 女性アスリートの

我慢していませんか？

誤解していた！

もっと楽に過ごしたいのに…

パートナーにできることって何だろう？

この知識って古い？

どんなサポートができる？

月経をはじめとする女性特有の問題は、悩みも状態も人それぞれ。

上手に付き合い、より豊かな日々をしたいものですね。

スポーツをしている皆さん、支えている指導者・保護者の皆さん、  
毎月の生理にお悩みの皆さん、男性の皆さん、どなたでも大歓迎です。

誰に相談するといいいのか？

最近身体が変化してきたかも…

ピルについて詳しく知りたい

こんな時はどうしたらいいの？

## お申込み

2025年1月7日（火） 山形大学生先行受付開始

14日（火） 一般受付開始

2月14日（金） 17時受付終了

下記 URL または右側の QR コードより、必要事項を入力の上送信してください。

<https://forms.office.com/r/aFueRnZqA>

お気軽にお申込み下さい！  
お参加の皆様お待ちしています！





## 講師 井上 聡子氏 (さとこ女性クリニック 院長)

山形市出身 山形大学医学部卒 / 医学博士

日本産科婦人科学会専門医

日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医

日本産婦人科医会医業推進委員

日本医師会認定健康スポーツ医

日本スポーツ協会公認スポーツドクター

山形県産婦人科医会常任理事

山形医療技術専門学校非常勤講師

性教育山形サークル代表

## 託児ブースについて (先着順)

特定非営利活動法人やまがた育児サークルランド様 (☎023-673-9336) のご協力のもと、講演会中の託児をいたします。子育て中の方、是非ご活用ください！

託児ブース 山形ビッグウィング 小会議室 (講演会開場に隣接したお部屋です)

託児時間 14時～14時20分までに、託児ブースでの受付をお願いいたします。講演会終了後は、速やかにお迎えにお越しください。

- ・お子さんの年齢に合わせておもちゃ、おやつ、麦茶を準備しております。
- ・集団託児になりますので、病気の場合はお預かりできません。集団での託児ができないと判断されるお子さんについては、お預かりできない場合があります。

対象 1歳～就学前のお子さん

定員 先着4～8名 ※当日配置できる保育者数は2名になります。お子さんの年齢によって保育できる人数が異なりますのでご了承ください。

申込 講演会のお申込みフォームより、託児希望の有無をご選択ください。お申しいただいた順に、メールにて当日の詳細をお知らせいたします。上限に達し次第、託児のお申込は終了させていただきます。

## サポートについて



講演会中のサポートが必要な方は、お申込ページよりお知らせください。

※内容によっては、ご希望に添えない場合がございます。予めご了承ください。

(例) パワーポイントの字幕設定をしてほしい、筆談アプリを用意してほしい等

## アクセス

<お車>

無料駐車場あり

<JR>

羽前千歳駅より徒歩20分

<山交バス>

ヒルズサンピア⇄県立中央病院

<会場周辺マップ>



←時刻表はコチラ



## お問合せ

〒990-8560 山形市小白川一丁目4-12

山形大学小白川キャンパス (財) 森の学校 寄附講座 ヤマガタアスリートアカデミー担当

TEL: 023-628-4917・023-628-4412 FAX: 023-628-4125

MAIL: [yu-kj-yamaasu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:yu-kj-yamaasu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp)



山形大学  
Yamagata University

CWB  
Yamagata University  
Center for Wellbeing



令和7年（2025年）2月6日

## 産学金連携コーディネーター認定証授与式 記念セミナー・地域交流研修会を開催

### 【本件のポイント】

- 地域産業活性化に加えて、コロナ禍後に倒産が増加しないように、金融機関の事業性目利き力の強化が求められている。
- 山形大学は、金融機関職員を対象とした事業性の目利き力強化のための研修を19年前から実施。現在では県内にとどまらず、東京都、大分県においても実施。
- 今年は、研修受講後一定の条件を満たした222名に対して産学金連携コーディネーターの認定証を授与。
- コロナ禍後の金融機関によるモニタリング機能の高度化の施策に関する中小企業庁事業環境部金融課長による記念講演。



### 【概要】

山形大学は、令和6年度に実施した金融機関職員を対象とした事業性目利き研修を受講し、研修を活かした県内企業に対する経営支援活動を実践したレポートを提出する等の一定の条件を満たした者に対して、「産学金連携コーディネーター」の認定証を授与する。新規に今年度の研修を受講した者に加え、更新認定者、上位となるシニアコーディネーター認定者を加えた222名に認定証が授与される。

今年度の研修は、山形県、東京都、大分県で実施された。認定証授与式と併せて、各地域の受講者の代表が集い、優良事例を発表する地域交流研修会も行う。

記念講演として、中小企業庁事業環境部金融課長の野沢泰志氏を招き、金融機関によるモニタリング機能の高度化の施策に関する説明を聞く。

### 【背景】

地域産業が活性化するには、金融機関が事業の将来性を適切に評価して資金を円滑に供給することが重要。昨年、企業価値担保法制が国会を通過し、今年から施策が本格化する。また、資金提供後も当該企業の事業が順調に推移しているかのモニタリングが倒産の防止等に寄与する。近時の倒産数増加の傾向に対して、金融機関のモニタリング機能の高度化が国において検討されている。これらの時代的な要請に応えるため、事業性目利き力の重要性がさらに高まっている。

### 【日時・会場等】

日時：令和7年2月14日（金）13:00～17:30

場所：山形テルサ3F研修室A

### 【次第等】

別紙のとおり

お問い合わせ

山形大学認定 地域価値創生学研究ユニット 小野・鈴木・房間

TEL 0238-26-3265 (FAX 兼), 3031 メール [gakukinp@yz.Yamagata-u.ac.jp](mailto:gakukinp@yz.Yamagata-u.ac.jp)

# 2024年度 産学金連携プラットフォーム認定証授与式・地域交流研修会

日時：2025年2月14日（金）  
場所：山形テルサ 3F 研修室A

## 第一部：産学金連携コーディネーター認定証授与式（13：00～13：40）

認定証授与（新規認定者・シニアコーディネーター・更新認定者） 山形大学長 玉手英利

## 第二部：記念講演（14：00～15：15）



### 「中小企業金融と事業性評価 ～コーディネータの皆様への期待～」

中小企業庁事業環境部金融課長 野沢泰志 氏

#### 講師略歴

2001年東京大学法学部卒業、経済産業省に入省。2007年コロンビア大学大学院修了（行政学）  
経産省では、コンテンツ産業、半導体産業、ディープテック・スタートアップの支援などの幅広い産業政策に  
携わる。2024年7月より現職。

2024年12月～「円滑な事業再生等に向けたモニタリングの高度化に関する研究会」を所管

## 第三部：地区交流会 優秀事例発表会（15：30～17：30）

### 事例発表

- ①大分地区優秀事例（豊和銀行・大分信用金庫・大分県信用保証協会チーム）
- ②山形地区優秀事例（山形信用金庫・鶴岡信用金庫・山形第一信用組合チーム）
- ③東京荒川地区優秀事例（昭和物産株式会社 代表取締役社長 中神文明 氏）

申込・問合せ先：産学金連携プラットフォーム事務局（山形大学認定 地域価値創生学研究ユニット）  
鈴木・房間 0238-26-3265（FAX兼） [gakukinpf@yz.Yamagata-u.ac.jp](mailto:gakukinpf@yz.Yamagata-u.ac.jp)

令和7年2月6日

## 令和7年度山形大学入学者選抜個別学力検査等の取材について

### 【本件のポイント】

- 令和7年度山形大学入学者選抜個別学力検査等を、2月25日(火)、26日(水)及び3月12日(水)に実施します。
- 取材を希望される際は、申出期限までに各学部等の入試担当にご連絡願います。
- 個別学力検査等の円滑な実施にご協力をお願いいたします。

### 【概要】

令和7年度山形大学入学者選抜個別学力検査等の取材について、別添「令和7年度個別学力検査等の取材について」のとおりお知らせいたします。取材を希望される際は、申出期限までに各学部等の入試担当にご連絡願います。志願状況及び選抜スケジュールの詳細は、以下と別紙をご覧ください。

### 【志願状況及び選抜スケジュール等】

本件の参考として、次の資料をお送りします。

1. 令和7年度山形大学一般選抜志願状況「2月5日時点」
2. 令和7年度山形大学個別学力検査等実施日程表
3. 令和7年度山形大学個別学力検査等試験問題公表予定時刻(面接を除く。)

※志願状況の確定版については、後日改めて報道機関各社宛に FAX でお知らせします。

※試験当日の教科・科目別受験状況の公表は、2月25日(火)及び3月12日(水)の17:00頃までに報道機関各社宛に FAX でお知らせします。

### 【試験当日について】

試験当日は、撮影開始時刻の10分前までに、各学部が指定する集合場所(取材申込時に各学部を確認のこと)にお集まりください。

なお、小白川キャンパスにおいて、次の時間帯は大学正門から車両の入・出構はできません。取材及び問題冊子受取時の入構経路については、別添「4. 入・出構経路について」をご覧ください。

- 前期日程 2月25日(火) 8:00~17:30
- 後期日程 3月12日(水) 8:30~12:00

### 【合格発表日時】

合格者の発表日時は以下のとおりです。

- 前期日程 3月7日(金) 11:00
- 後期日程 3月20日(木・祝) 16:00

(合格者の大学受験番号を本学ホームページに掲載します。掲示での発表は行いません。)

〔送付部数：本紙を含めて 8枚〕

お問合せ  
エンrollment・マネジメント部  
入試課  
TEL 023-628-4140

## 令和7年度個別学力検査等の取材について

山形大学

- 1 個別学力検査等の取材については、あらかじめ下記期日までに試験場責任者（各学部長等）の了承を得てください。

なお、その後の申出については受けられないことがありますので、ご注意ください。

### 【申出期限】

前期日程は2月14日(金)、後期日程は2月28日(金)とします。

### 【申出先】

学部等	担当	電話番号
人文社会科学部	小白川キャンパス事務部入試課	023(628)4011
地域教育文化学部		
理学部		
医学部	医学部入試担当	023(628)5049
工学部	工学部入試担当	0238(26)3013
農学部	農学部入試担当	0235(28)2808
社会共創デジタル学環	小白川キャンパス事務部入試課	023(628)4011

- 2 試験室内の撮影は、前期日程は2月25日(火)、後期日程は3月12日(水)とし、試験場責任者の指定する職員の立会いのもとで行ってください。

- (1) 試験場責任者が指定する試験室でのみ撮影を許可します。

※学部等によっては建物の外での撮影を指定する場合があります。

- (2) 撮影時間は、試験開始前の次の時間内(10分以内)とします。

#### ① 前期日程：2月25日(火)

人文社会科学部	12:10 ~ 12:20
地域教育文化学部	12:10 ~ 12:20
理学部	9:10 ~ 9:20
医学部	9:10 ~ 9:20
工学部	9:10 ~ 9:20
農学部	9:10 ~ 9:20
社会共創デジタル学環	8:40 ~ 8:50

#### ② 後期日程：3月12日(水)

人文社会科学部	9:40 ~ 9:50
地域教育文化学部	9:40 ~ 9:50
工学部	12:00 ~ 12:10

- (3) 受験者に動揺を与えないよう注意してください。

- (4) 受験者が特定できるような撮影は、絶対に避けてください。

- (5) 試験場責任者が指定する試験室以外の「試験室」及び「試験室のある建物」への立入りはできません。
- 3 受験者の安全確保の観点から、上記2で指定された試験室及び時間以外での撮影はご遠慮ください。
  - 4 取材者は、必ず各社の腕章を着用してください。
  - 5 身体に障害のある受験者の取材については、あらかじめ本人の了解を得る必要があるので、試験場責任者の指示に従ってください。
  - 6 不測の事態が発生して試験が中止された場合等においても、必ず試験場責任者の指定する職員の指示に従ってください。
  - 7 個別学力検査等の実施に関する不明な点については、エンrollment・マネジメント部入試課にお問合せください。(023(628)4140)

令和7年（2025年）2月6日

## 山形大学学位記授与式等の取材に対するお願い

### 【本件のポイント】

- 各会場では、係員の指示に従っていただき、式典の円滑な進行にご協力をお願いいたします。
- 学長告辞については当日に配付いたしますが、式終了後に公表願います。
- 事前の取材申し込みは不要です（医学部・医学系研究科の会場を除く）。

### 【概要】

令和6年度学位記・修了証書授与式等を各キャンパス並びに各附属学校園において、下記のとおり挙行いたします。式当日の取材に際しては、各会場における留意事項を遵守の上、式進行の妨げとなるような行為は慎んでいただき、円滑な進行にご協力をお願いいたします。

また、学長告辞については当日に配付いたしますが、式終了後に公表願います。

- 人文社会科学部・地域教育文化学部・理学部・養護教諭特別別科・社会文化創造研究科・  
理工学研究科（理学系）・教育実践研究科  
日 時：令和7年3月25日（火）11：00開式  
会 場：やまぎん県民ホール（山形市）
- 医学部・医学系研究科  
日 時：令和7年3月25日（火）14：00開式  
会 場：ホテルメトロポリタン山形（山形市）
- 工学部・理工学研究科（工学系）・有機材料システム研究科  
日 時：令和7年3月20日（木）11：00開式  
会 場：米沢市営体育館（米沢市）
- 農学部・農学研究科  
日 時：令和7年3月17日（月）11：00開式  
会 場：東京第一ホテル鶴岡（鶴岡市）

### 【附属学校園】

- 附属幼稚園  
日 時：令和7年3月15日（土）9：45開式  
会 場：附属幼稚園遊戯室
- 附属小学校  
日 時：令和7年3月19日（水）9：00開式  
会 場：附属小学校体育館
- 附属中学校  
日 時：令和7年3月14日（金）9：00開式  
会 場：附属中学校体育館
- 附属特別支援学校  
日 時：令和7年3月14日（金）9：30開式  
会 場：附属特別支援学校体育館

お問い合わせ

総務部総務課 TEL 023-628-4006、4004